

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	NPO入門	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-小阪 亘	1年	ptt797@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本授業のテーマは「アクション」。NPOのスタッフやリーダーとして実際に活動している人を招き、沖縄の社会課題解決に向けて活動する現場について学ぶ。事例実践者とともに社会課題解決に向けて議論と提案をする。また、NPOについての理解を深めるためにレクチャーとワークを行いながら社会課題に気づき、アクションを起こす力を育むことを目的とする。	メッセージ この講義をきっかけに自ら社会にアクションを起こせる人になってほしいと思っています。まずは一歩踏み出しませんか。
	到達目標 ・NPOについて「知る」「考える」「動く」初歩的な知識を身に付けることができる。 ・グループで対話（小グループ、全体）する力を身に付け、社会課題について考える力をつける事ができる。 ・自ら身近な社会課題について調べ、解決に向けての計画を立て、アクションを起こす。一連のサイクルをみにつけることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション 自己紹介（取り組む活動紹介）	レジュメの復習
	2	対話とグランドルール	レジュメの復習
	3	知る・NPO活動と社会での役割	レジュメの復習
	4	知る・日本のNPO史とNPO法	レジュメの復習
	5	考える1・日本/沖縄の社会課題を考える	レジュメの復習
	6	事例1 学生NPO	レジュメの復習
	7	事例2 子育てと子どものおもちゃ	レジュメの復習
	8	事例3 環境NPO	レジュメの復習
9	事例4 社会でチャレンジ	レジュメの復習	
10	知る・社会を変える仕組みをつくる	レジュメの復習	
11	考える2・APブラッシュアップワーク	レジュメの復習	
12	NPOの資金源/ボランティア/寄付	レジュメの復習	
13	事例5 福祉NPO	レジュメの復習	
14	パートナー/企業CSR/行政協働	レジュメの復習	
15	それぞれのone action（まとめ、ふりかえり）	レジュメの復習	
16	最終講義	レジュメの復習	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用しません。毎回プリントします。 加藤哲夫著「一夜でわかる！NPOの作り方」（主婦の友社 2004年） デービッド・ボーンステイン著「世界を変える人たち」（ダイヤモンド社 2007年） 駒崎弘樹著「社会を変える」お金の使い方」（英治出版 2010年）		
	学びの手立て ・事例発表のテーマやNPOについては変更する場合がある。 ・授業への参加人数や状況によっては（事例4～10）については、授業履修者にコーディネートしてもらう。		
	評価 ・期末レポート（テーマ：One Action） ・毎回授業終了時に簡単なミニレポートを提出。（ふりかえり、気づき、感想） ・講義の出席70%以上 ・授業参加（出席回数や授業、議論への参加度など）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・「環境」「福祉」「まちづくり」など、各分野の専門性を深め社会課題がなんであるかを分析する。 ・NPOという組織が継続して社会課題を解決するための組織として存在するためのマネジメントについて学ぶ
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	観光入門	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	1年	i.sanjon@okiu.ac.jpまたは授業終了後	

学びの準備	ねらい 本講義は観光学に関する基礎知識や基本仕組みなど、観光学の基礎理論を学ぶことで、観光が人間社会に与える様々な影響とともに沖縄社会においての意義について理解する。	メッセージ 沖縄社会において、観光は何より密接な関係があります。我々は日々、多様な観光客に出会っています。本講義の内容は日常生活の中で、我々が経験している多様な観光事例を挙げながら、講義を分かりやすく進めます。
	到達目標 1. 観光に関する基礎用語から基本理論まで理解できるように学習する。 2. 多様なケースを通じて学習することで多様な観光産業の特徴について理解できるようにする。 3. 沖縄社会において、観光産業の意義や今後の課題など、大学1年生としての教養知識を身につけるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	観光と観光学	テキストを読むこと
	3	観光と行動	テキストを読むこと
	4	観光情報と観光情報産業	テキストを読むこと
	5	観光と交通	テキストを読むこと
	6	観光地と観光資源	沖縄観光資源について調査
	7	観光と環境	沖縄自然と観光開発との関係
	8	中間テスト	個別学習
	9	観光と文化	テキストを読むこと
	10	観光施設	沖縄観光施設について調査
	11	観光と経済	テキストを読むこと
	12	観光消費	沖縄観光統計について調査
	13	観光と地域社会	テキストを読むこと
	14	観光産業と投資	テキストを読むこと
	15	学習内容のまとめ	個別学習
	16	期末テスト	
	テキスト・参考文献・資料など 1. テキスト：岡本伸之[編]『観光学入門。ポスト・マス・ツーリズムの観光学』有斐閣アルマ、2015年。 *テキストのほかに、適宜プリント資料を配布します。		
	学びの手立て 1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。 (やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前にメールで連絡してください) 2. テキストを中心として学習し、積極的に講義に参加してください。		
	評価 1. 出席・受講態度：出席チェックは行いません。ただし、授業中のディスカッションに参加した受講生には加算店があります。(最大10点) 2. 中間テスト40%(場合によってレポートに振替) 3. 期末テスト60%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：グローバル観光ビジネスや観光マーケティング他観光と関連した諸科目。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育学Ⅰ	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	1年	研究室：5号館5階5514 E-mail: onomi(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 教育学という学問領域がよって立つ地平を、社会、発達、思想、生命、人権、平和といった観点から確認し、今後、学生が教育について考えていく際に必要となるであろう基礎的視角を提供する。本講義を通じて、教育という営みに対する学生の興味関心がより深いものになることを期待する。	メッセージ 教師になる/ならないにかかわらず、ひろく教育に関心がある学生の受講を歓迎する。
	到達目標 教育をめぐる諸事象にたいして、学問的関心と自分なりの意見をもてるようになる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨN 2 学力と教育（1）－「学力低下」問題① 3 学力と教育（2）－「学力低下」問題② 4 発達と教育（1）－野生児の記録① 5 発達と教育（2）－野生児の記録② 6 特色ある教育の思想と実践（1）－シュタイナー教育① 7 特色ある教育の思想と実践（2）－シュタイナー教育② 8 ジェンダーと教育（1） 9 ジェンダーと教育（2） 10 生命と教育（1）－優生学と教育① 11 生命と教育（2）－優生学と教育② 12 人権と教育（1）－差別と教育① 13 人権と教育（2）－差別と教育② 14 平和と教育（1）－沖縄戦と教育① 15 平和と教育（2）－沖縄戦と教育② 16 期末試験 <p>※授業の復習とともに、授業で扱われたトピックの各々につき一冊以上の本を読むことが望ましい。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。参考文献については授業中に適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>無断欠席、遅刻、私語、正当な理由のない途中退席は認めない。 毎回、授業終盤にリアクシヨN・ペーパーを課す（この提出をもって出席とする）。なお、数名分を次の授業時に紹介する。 五回以上欠席した場合は、期末試験の受験を認めない。</p>
評価	期末試験の結果によって評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 教育学Ⅱ
-------	---------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育学Ⅰ	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	1年	研究室：5号館5階5514 E-mail:onomi(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>教育学という学問領域がよって立つ地平を、社会、発達、思想、生命、人権、平和といった観点から確認し、今後、学生が教育について考えていく際に必要となるであろう基礎的視角を提供する。本講義を通じて、教育という営みに対する学生の興味関心がより深いものになることを期待する。</p>	<p>教師になる/ならないにかかわらず、ひろく教育に関心がある学生の受講を歓迎する。</p>

到達目標	教育をめぐる諸事象にたいして、学問的関心と自分なりの意見をもてるようになる。
------	--

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨN 2 学力と教育（1）－「学力低下」問題① 3 学力と教育（2）－「学力低下」問題② 4 発達と教育（1）－野生児の記録① 5 発達と教育（2）－野生児の記録② 6 特色ある教育の思想と実践（1）－シュタイナー教育① 7 特色ある教育の思想と実践（2）－シュタイナー教育② 8 ジェンダーと教育（1） 9 ジェンダーと教育（2） 10 生命と教育（1）－優生学と教育① 11 生命と教育（2）－優生学と教育② 12 人権と教育（1）－差別と教育① 13 人権と教育（2）－差別と教育② 14 平和と教育（1）－沖縄戦と教育① 15 平和と教育（2）－沖縄戦と教育② 16 期末試験 <p>※授業の復習とともに、授業で扱われたトピックの各々につき一冊以上の本を読むことが望ましい。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。参考文献については授業中に適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>無断欠席、遅刻、私語、正当な理由のない途中退席は認めない。 毎回、授業終盤にリアクシヨN・ペーパーを課す（この提出をもって出席とする）。なお、数名分を次の授業時に紹介する。 五回以上欠席した場合は、期末試験の受験を認めない。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>教育学Ⅱ</p>
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育学Ⅱ	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	1年	研究室：5号館5階5514 E-mail:onomi(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>教育という営みを支える基礎原理を、歴史・思想・制度といった多角的な視点から読み解き、その限界と可能性を確認しながら、今後の教育のあるべき姿を学生とともに模索する。教育学Ⅰと同じく、学生が今後、教育について考えていく際に必要となるであろう基礎的視角の提供を目的とする。</p>	<p>教師になる/ならないにかかわらず、ひろく教育に関心がある学生の受講を歓迎する。</p>
到達目標	教育をめぐる諸事象にたいして、学問的関心と自分なりの意見をもてるようになる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨン 2 子ども理解について（1）—臨床心理学の知見① 3 子ども理解について（2）—臨床心理学の知見② 4 教師と教育（1）—今日の教師をとりまく社会的状況① 5 教師と教育（2）—今日の教師をとりまく社会的状況② 6 教師と教育（3）—「教師—生徒」関係の課題 7 性と教育（1）—性教育の現状 8 性と教育（2）—性教育の歴史 9 性と教育（3）—性と人間発達の理論 10 教育の現代的課題（1）—適応障害について① 11 教育の現代的課題（2）—適応障害について② 12 教育の現代的課題（3）—モンスター・ペアレントについて 13 歴史と教育（1）—歴史教科書問題を考える① 14 歴史と教育（2）—歴史教科書問題を考える② 15 いのちの授業について 16 期末試験 <p>※授業の復習とともに、授業で扱われたトピックの各々につき一冊以上の本を読むことが望ましい。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。参考文献については授業中に適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>無断欠席、遅刻、私語、正当な理由のない途中退席は認めない。 毎回、授業終盤にリアクション・ペーパーを課す（この提出をもって出席とする）。なお、数名分を次の授業時に紹介する。 五回以上欠席した場合は、期末試験の受験を認めない。</p>
評価	期末試験の結果によって評価する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>教育学Ⅰ</p>
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	教育学Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	1年	研究室：5号館5階5514 E-mail:onomi(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>教育という営みを支える基礎原理を、歴史・思想・制度といった多角的な視点から読み解き、その限界と可能性を確認しながら、今後の教育のあるべき姿を学生とともに模索する。教育学Ⅰと同じく、学生が今後、教育について考えていく際に必要となるであろう基礎的視角の提供を目的とする。</p>	<p>教師になる/ならないにかかわらず、ひろく教育に関心がある学生の受講を歓迎する。</p>
到達目標	教育をめぐる諸事象にたいして、学問的関心と自分なりの意見をもてるようになる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 インTRODクシヨン 2 子ども理解について（1）—臨床心理学の知見① 3 子ども理解について（2）—臨床心理学の知見② 4 教師と教育（1）—今日の教師をとりまく社会的状況① 5 教師と教育（2）—今日の教師をとりまく社会的状況② 6 教師と教育（3）—「教師—生徒」関係の課題 7 性と教育（1）—性教育の現状 8 性と教育（2）—性教育の歴史 9 性と教育（3）—性と人間発達の理論 10 教育の現代的課題（1）—適応障害について① 11 教育の現代的課題（2）—適応障害について② 12 教育の現代的課題（3）—モンスター・ペアレントについて 13 歴史と教育（1）—歴史教科書問題を考える① 14 歴史と教育（2）—歴史教科書問題を考える② 15 いのちの授業について 16 期末試験 <p>※授業の復習とともに、授業で扱われたトピックの各々につき一冊以上の本を読むことが望ましい。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。参考文献については授業中に適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>無断欠席、遅刻、私語、正当な理由のない途中退席は認めない。 毎回、授業終盤にリアクション・ペーパーを課す（この提出をもって出席とする）。なお、数名分を次の授業時に紹介する。 五回以上欠席した場合は、期末試験の受験を認めない。</p>
	<p>評価</p> <p>期末試験の結果によって評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>教育学Ⅰ</p>
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	協働社会論	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-具志 真孝	1年	授業終了後、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 協働のまちづくりを推進するため、家庭・学校・社会教育・生涯学習の概念と関連性を把握する。社会教育施設（公民館・図書館・博物館等）の役割・機能・運営、専門的職員の資質・課題等を理解する。学校と地域、行政との協働の在り方や先進事例を通して、協働のまちづくりを考える機会とする。	メッセージ 学校と地域、行政との連携・協働の在り方や先進的なまちづくり事例の紹介等を行うので、実践に生かしてほしい。
	到達目標 1. 協働のまちづくりの概念や事例を把握して、地域のまちづくり活動への参加意識を高める。 2. 教職及び社会教育施設職員（公立公民館・図書館・博物館）志望の学生が、就職活動に生かせること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	「ガイダンス「協働のまちづくりとは何か」～市民・企業・行政セクターの関係性～	シラバスを把握すること
	2	「NPO（法人）とは何か」～法人化の手続き・メリット等～	事前に配布資料を読むこと
	3	「まちづくりの考程・情報生産技術」	同上
	4	「家庭教育、学校教育、社会教育、生涯学習について」	同上
	5	「公民館の役割・機能・運営」～専門的職員の資質～	同上
	6	「公立公民館又は自治会の視察」	同上
	7	「図書館の役割・機能・運営」～専門的職員の資質～	同上
	8	「公立図書館の視察」	同上
	9	「博物館の役割・機能・運営」～専門的職員の資質～	同上
	10	「公立博物館の視察」	同上
	11	「指定管理者制度の概要」	同上
	12	「次世代の学校・地域」創生プラン(1)～全体（コミュニティ・スクール等）の概要～	参考文献②・③を読むこと
	13	「次世代の学校・地域」創生プラン(2)～コミュニティ・スクールの学校視察～	同上
	14	「次世代の学校・地域」創生プラン(3)～地域学校協働活動の概要～	同上
15	「協働のまちづくりの事例紹介(1)」～オーストラリアの先進事例～	参考文献①を読むこと	
16	「協働のまちづくりの事例紹介(2)」～仙台市市民センターの先進事例～、まとめ～振り返り～	各自スピーチの準備を行うこと	
	テキスト・参考文献・資料など		
	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは指定しない。時間外の自主学習に役立つ参考文献として、以下を推薦する。 ①「個人のライフスタイルとコミュニティの自立」ジル・ジョーダン（著）デジャ・テン由香里（翻訳） ②「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」中央教育審議会答申（平成27年12月21日） ③「次世代の学校・地域」創生プラン～学校と地域の一体改革による地域創生～平成28年1月25日文部科学大臣決定 		
	学びの手立て		
	履修の心構えとして、以下注意してください。 ・出欠確認を毎回行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前に連絡（欠席届の提出）すること。 ・教職及び社会教育施設（公民館・図書館・博物館）職員志望の学生は、本授業に対し理解が早いと思います。但し、予備知識のない学生にも本講義が理解できるよう配慮します。		
	評価		
	○レポート：90点 ○まとめ～振り返り～：10点 各自のスピーチで評価		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・協働のまちづくりに関する理論と事例の学びを継続することで、まちづくり活動へ関わる能力を高め、実践につなげてほしい。 ・教職及び社会教育施設職員志望の学生は、学校と地域の連携・協働の在り方や社会教育施設（公民館・図書館・博物館）と地域との関わり方について、ステップアップにつなげることを期待したい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済学 I	前期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	中野 謙	1年	授業終了後に教室か5-604研究室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい この授業は、初歩的なマイクロ経済学の知識を身につけ、主な理論を用いて経済分析ができるようになることを目的とします。授業の位置付けは応用マイクロ経済学を学ぶための導入であり、マイクロ経済学の用語を覚え、基礎的な理論が理解できるようになることを目指します。	メッセージ マイクロ経済学の初学者を対象とした内容に設定してあるため、経済学を初めて学ぶ学生や苦手意識を持つ学生に適しています。授業で学ぶ知識や理論は社会生活で役立つため、積極的な受講を推奨します。また、応用マイクロ経済学の履修を希望する学生は必ず受講してください。
	到達目標 ①マイクロ経済学に関する基礎的な用語と理論を理解し、説明することができる（確認テストと期末試験で評価） ②授業で取り上げた事例に対して、マイクロ経済学の観点から妥当な持論を述べる（授業での発表と討論レポートで評価）	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オープニングガイダンス／経済学の有用性	授業内容の復習をしておく
	2	マイクロ経済学の用語	授業内容の復習をしておく
	3	マイクロ経済学の基礎理論	ディスカッション①準備をしておく
	4	ディスカッション①「高級品はなぜ売れるのか」	授業内容の復習をしておく
	5	確認テスト／家計と需要	授業内容の復習をしておく
	6	価格弾力性とは	授業内容の復習をしておく
	7	企業と生産	ディスカッション②準備をしておく
	8	ディスカッション②「臓器売買はなぜ生じるのか」	授業内容の復習をしておく
	9	確認テスト／供給曲線	授業内容の復習をしておく
	10	市場メカニズム	授業内容の復習をしておく
	11	市場の失敗と政府の役割	ディスカッション③準備をしておく
	12	ディスカッション③「値上げをすると儲かるか」	授業内容の復習をしておく
	13	ゲーム理論	授業内容の復習をしておく
	14	情報の非対称性	授業内容の復習をしておく
	15	総括／確認テストと解説	定期試験に向けた復習をしておく
	16	期末試験	
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキストは使用せず、必要に応じてレジュメを配付します。参考文献は以下のとおりです。 ①井堀利宏『大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA、2015年4月 ②木暮太一『落ちこぼれでもわかるマイクロ経済学の本』マトマ出版、2006年7月		
	学びの手立て		
	●開講期間中に確認テストとディスカッションを3回実施します。確認テストは、その回までの授業範囲を対象とするため、範囲の重複があります。一方、ディスカッションは、議論の結果をチームごとに発表してもらい、受講者に相互評価してもらいます。また、ディスカッションの結果はチームごとに「討論レポート」にまとめ、発表後に提出してもらいます。この発表と討論レポートも成績評価の対象とします。ディスカッションを行うためには事前の調査が必要となるため、授業外学習で準備をしておいてください。これを怠った場合、深い議論が行えないため、相応の減点をします。なお、ディスカッションのテーマは最新の時事問題に差し替える可能性があります。●この授業では期末試験を行います。期末試験は、授業とディスカッションで取り扱ったすべての範囲が対象であり、「持ち込み不可」なので、しっかりと復習を行い、内容の理解に努めてください。		
	評価		
	①発表15%（受講者による相互評価） ②討論レポート15%（教員による評価） ③確認テスト20%（第5、9、15回の授業内） ④期末試験50%（授業で取り扱ったすべての範囲が対象。持ち込み不可）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：マイクロ経済学 I・II、応用マイクロ経済学 I・II 次のステージ：マイクロ経済学 I、経済学 II
-------	--

※ポリシーとの関連性

本講義では、①経済学の基礎的・専門的知識を学びつつ、②経済社会問題を考察し、③課題解決の視点を得ることを目的とします。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済学Ⅱ	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	平敷 卓	1年	t.heshiki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経済学の入門編として、特にマクロ経済学のエッセンスを学習するとともに、経済学的視点から経済現象や社会問題を読み解く力、論理的に考える力を修得することを目標とします。	メッセージ 各回経済時事、ニュース等を取り上げながら講義をします。経済学や経済政策について広い関心を持つ経済学の初学者、経済学部以外の学生に履修を勧めます。
	到達目標 ①経済学の基本的な考え方、アプローチについて理解することが出来る。 ②経済政策（財政政策・金融政策）を支える基本的な考え方について理解する。 ③グローバル化の下で現代国家が抱える経済的な課題について把握し、各国の政策協調の現在を知る。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、授業評価方法等について	シラバスを読む
	2	経済学とは何か？ーマクロ経済学のアプローチ	経済記事や参考文献①を参照
3	マクロ経済学と経済指標	参考文献①を参照	
4	GDPと三面等価の原則	参考文献①、②を参照	
5	消費と貯蓄の考え方	参考文献①、②を参照	
6	企業の投資	参考文献①、②を参照	
7	政府の支出	参考文献①、②を参照	
8	前半のまとめ	講義前半の振り返り	
9	総需要の経済学ーケインズ経済学(1)	参考文献②、③を参照	
10	総需要の経済学ーケインズ経済学(2)	参考文献②、③を参照	
11	金融市場と金融政策	経済記事、参考文献③を参照	
12	政府による所得分配(1)	参考文献②を参照	
13	政府による所得分配(2)	参考文献②を参照	
14	日本における財政政策と金融政策	財政・金融政策関係資料を調べる	
15	講義のまとめ	講義後半の振り返り	
16	期末テスト	講義全体の振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しませんが、マクロ経済学の入門書等を参照し、基本的な考え方を押さえておくことを勧めます。 講義では適宜プリントを配布します。 【参考文献】 ①家森信善(2015)『基礎からわかるマクロ経済学【第4版】』中央経済社 ②柴田章久他著(2013)『マクロ経済学の第一歩』有斐閣ストゥディア ③飯田泰之他著(2013)『コンパクトマクロ経済学』新世社		
	学びの手立て ○履修の心構え 講義中の私語、スマホ利用などは厳禁です。 毎回、出欠確認を行います。毎講義、講義内容に関する質問や意見等を求めるため講義に関連する時事に関心を払っておくことを求めます。 ○学びを深めるために 国内外の経済時事に広い関心を払うことを勧めます。 経済学の基本的な考え方を社会生活の中で実践的に使うことを想定して学ぶ姿勢を求めます。		
	評価 ○平常点(15%) 小テスト(25%) 期末テスト(60%) ※出席が3分の2に満たない場合は、期末テストの受験資格を失います。 欠席届の提出により、欠席が出席扱いになることはありません(公欠を除く)。 ○上記の評価基準により到達目標の①、②、③を総合的に評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義の内容はマクロ経済学のエッセンスと現代の経済政策全般に関する内容を扱います。より深く学びたい人は、下記の関連科目の履修を勧めます。 【関連科目・次のステージ】 マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、財政学Ⅰ・Ⅱ、経済政策総論Ⅰ・Ⅱ
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会学 I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-末吉 重人	1年	学内LAN、メルアドへ	

学びの準備	ねらい 本講義は共通科目であるため、親しみやすさを目指し、前期は興味を持ちやすいアップデートな「社会問題」を扱う。	メッセージ 社会問題を冷静に見ることができることを目指す。
	到達目標 社会問題は複雑に見えるが底辺においてつながる部分があることを理解できるようにしたい。	

学びの準備	到達目標 社会問題は複雑に見えるが底辺においてつながる部分があることを理解できるようにしたい。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスの説明	
	2	マスコミ論入門	テキストPP14-17、PP79-81
	3	マスコミの中立性 ビデオ視聴	テキスト指定箇所の読了
	4	各紙の論調の比較検討	テキスト指定箇所の読了
	5	家族問題入門 家族の機能	テキストPP18-24、PP81-86
	6	子どもの社会問題（虐待・貧困） ビデオ視聴	テキスト指定箇所の読了
	7	ジェンダーの問題	テキストPP25-27、PP86-87
	8	沖縄の家族問題	テキスト指定箇所の読了
	9	社会福祉入門：福祉の体系	テキストPP28-38、PP87-90
	10	知らないと損する社会保障	テキスト指定箇所の読了
	11	障がいとは、発達障がいについて	テキスト指定箇所の読了
	12	ビデオ視聴とその解説	テキスト指定箇所の読了
	13	安全保障論：平和実現のための各種アプローチ	テキストPP46-47、
	14	戦争の歴史	テキスト指定箇所の読了
	15	喫緊の国際情勢の理解	テキスト指定箇所の読了
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト『書き込み式社会学入門』（末吉重人、球陽出版、2017年：500円） 参考文献：伊江朝章、波平勇夫、鶴飼照喜編『現代教養としての社会学』、福村出版、1989年
-------	--

学びの実践	学びの手立て どのタイミングでの質問も可。ディスカッションで授業を進めたいが、コメントシートを使つての対話も模索する。また板書の書き取りはノートパソコンを使つても構わない。
-------	---

学びの実践	評価 期末テスト（80点）と授業参加度（20点）で評価する。
-------	-----------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目は、その他の社会問題関連の科目。環境問題も含む。次のステージは自分の視点を確立するための材料を集めること。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会学 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-末吉 重人	1年	学内LAN、メルアドへ	

学びの準備	ねらい 本講義は共通科目であるため、親しみやすさを目指し前期は興味を持ちやすいアップデートな「社会問題」を扱う。	メッセージ 社会問題を冷静に見ることができることを目指す。
	到達目標 社会問題は複雑に見えるが底辺においてつながる部分があることを理解できるようにしたい。	

学びの準備	到達目標 社会問題は複雑に見えるが底辺においてつながる部分があることを理解できるようにしたい。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスの説明	
	2	マスコミ論入門	テキストPP14-17、PP79-81
	3	マスコミの中立性 ビデオ視聴	テキスト指定箇所の読了
	4	各紙の論調の比較検討	テキスト指定箇所の読了
	5	家族問題入門 家族の機能	テキストPP18-24、PP81-86
	6	子どもの社会問題（虐待・貧困） ビデオ視聴	テキスト指定箇所の読了
	7	ジェンダーの問題	テキストPP25-27、PP86-87
	8	沖縄の家族問題	テキスト指定箇所の読了
	9	社会福祉入門 福祉の体系	テキストPP28-38、PP97-90
	10	知らないと損する社会保障	テキスト指定箇所の読了
	11	障がいとは、発達障がいについて	テキスト指定箇所の読了
	12	ビデオ視聴とその解説	テキスト指定箇所の読了
	13	安全保障論 平和実現のための各種アプローチ	テキストPP46-47
	14	戦争の歴史	テキスト指定箇所の読了
	15	喫緊の国際情勢の理解	テキスト指定箇所の読了
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト『書き込み式社会学入門』（末重重人、球陽出版、2017年：500円） 三個文献：伊江朝章、波平勇夫、鶴飼照喜編『現代教養としての社会学』、福村出版、1989年
-------	--

学びの実践	学びの手立て どのタイミングでの質問も可。ディスカッションで授業を進めたいが、コメントシートでの対話も模索する。板書の書き取りにノートパソコンを使用しても構わない。
-------	---

学びの実践	評価 期末テスト（80点）と授業参加度（20点）で評価する。
-------	-----------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目は、その他の社会問題関連科目。環境問題も含む。次のステージは、自分の視点を確立するための材料を集める事。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会学Ⅱ	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-末吉 重人	1年	学内LAN、メルアドへ	

学びの準備	ねらい 後期はやや深刻な社会問題を扱う。その際、社会学理論がどのように役立つかを学ぶ。社会学成立の背景となったフランス革命をおさらいし、特に最近やっと三万人を下回り始めた自殺者問題をフランスの社会学者エミール・デュルケムの際に扱う。また共同体の持つ仲間への親しみの情と他人への冷遇の「二重倫理の問題」(マックス・ウェーバー)を、沖縄の社会事業史を手掛かりに学ぶ。	メッセージ 社会問題を社会学理論で分析するようにしたい。
	到達目標 社会問題の背後に社会学理論を応用できることがあることを理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスの説明	
	2	社会学の始まりーコントと仏革命	テキストPP8-10、PP76-79
	3	自殺論とデュルケム社会学	テキストPP49-52、PP96-97
4	デュルケムの自殺理論と自殺統計	テキスト指定箇所の読了	
5	自殺関連のビデオ視聴とその解説	テキスト指定箇所の読了	
6	20世紀を席卷したマルクス主義社会学	テキストP57-61、PP98-101	
7	20世紀と社会主義革命	テキスト指定箇所の読了	
8	ビデオ視聴とその解説	テキスト指定箇所の読了	
9	宗教に焦点を当てたウェーバー社会学	テキストPP53-56、PP97-98	
10	宗教が判らないと21世紀は読めない	テキスト指定箇所の読了	
11	支配の社会学と官僚制	テキスト指定箇所の読了	
12	パーソンズの社会システム論	テキストPP62-64、PP101-103	
13	AGILとは何か	テキスト指定箇所の読了	
14	社会事業史から見る沖縄社会論	『近世・近代沖縄の社会事業史』	
15	沖縄は何時から「優しく」なったのか	『近世・近代沖縄の社会事業史』	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など 『書き込み式社会学入門』(末吉重人、2017年：500円) 前期と同じテキスト。 参考文献：『社会学講義』富永健一、中公新書、1995年度初版、900円。『社会学のあゆみ』新睦人他、有斐閣新書1993年22版。『近世・近代沖縄の社会事業史』末吉重人・榕樹書林2004年		
	学びの手立て どのタイミングでの質問も可。ディスカッションを通じて授業を行いたい、コメントシートを通じての対話も模索する。板書の書き写しにノートパソコンを使用しても構わない。		
	評価 前後期とも期末テスト(80点)と授業参加度(20点)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目は、社会学理論・文化人類学関連の授業。次のステージは、自分の好む社会学理論に的が絞れるようにすること。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会生活課題研究Ⅰ	通年	水5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	3年	研究室：5号館5階5514 E-mail:onomi(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>広く人間の成長・変容に関わる問いを教育学、哲学、精神分析の観点から探究する。本当の自分とは何か？死んだらどうなるのか？なぜ自分は生まれてきたのか？こうした、人生にまつわる素朴な問いを、演習形式であらためて考えなおしてみたい。</p>	<p>教育学、哲学、精神分析の交差領域に関心をもつ者の受講が望ましい。共通科目「教育学Ⅰ」、「教育学Ⅱ」のいずれかを受講し、単位取得済みであることを受講条件とする。</p>

到達目標	葛藤を葛藤のままにひきうけるしなやかな思考を身につける。
------	------------------------------

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>【前期】</p> <p>第1回 インTRODクシヨン・自己紹介・発表担当決め</p> <p>第2回～第14回 発表とディスカッション（検討文献『魂のアイデンティティ』）</p> <p>第15回 前期まとめ</p> <p>【後期】</p> <p>第16回～第29回 発表とディスカッション（検討文献『誕生のインファンティア』）</p> <p>第30回 総合まとめ</p> <p>※発表資料の作成は時間外学習で行うことになる。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>西平直『魂のアイデンティティ』金子書房、1998年。</p> <p>西平直『誕生のインファンティア』みすず書房、2015年。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>無断欠席・遅刻は認めない。各人、前後期あわせて二回以上の発表（検討文献にたいする考察・論点の提示）を課す。</p>
	<p>評価</p> <p>発表（60%）、授業参加度（40%）。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>社会生活課題研究Ⅱ</p>
-------	-------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会生活課題研究 I	通年	火 4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	3年	sakihama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	人文地理学・歴史地理学による地域調査・社会調査の方法を体得する。調査内容は、(1)集落景観調査（地形・地質・水文などの自然環境調査と民家形式調査）及び(2)社会空間調査（親族組織・祭祀組織の空間的關係）に関して、本部町にある2集落を選定して調査を実施する。	野外科学としての人文地理学・歴史地理学の方法について、現場において体得します。調査については、事前準備、現場での調査内容・方法の検討、調査後の報告書作成など、チームワークが必要とされる場面もあります。沖縄の地理空間に関心のある学生の皆さんの参加を期待します。
到達目標	人文地理学・歴史地理学による地域調査・社会調査の方法を体得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	人文地理学における地域調査の目的と役割	シラバスをよく読むこと
	2	地域調査の種類と方法について	事前に配ったプリントを読むこと
	3	データの種類と活用方法	同上
	4	地域調査における文献の検討ー自然地理ー	同上
	5	地域調査における文献の検討ー人文地理ー	同上
	6	地域調査におけるデータの取得	同上
	7	地域調査における地図化作業の意味	同上
	8	地形図の利用①ー縮尺・等高線・地図記号ー	同上
	9	地形図の利用②ー読図ー	同上
	10	地形図の利用③ー読図の比較ー	同上
	11	国土基本図の利用方法	同上
	12	地籍図・住宅地図の利用方法	同上
	13	空中写真の利用方法	同上
	14	地図を用いた地域調査の企画	同上
	15	地図を用いた地域調査の設計	同上
	16	地域調査の企画・設計①（調査の目的と方法、調査地域の決定）	同上
	17	調査地域の企画・設計②（調査の種類と方法）	同上
	18	データの取得方法と仮説の検討	同上
	19	データの取得方法と仮説の設定	同上
	20	地域調査に向けての文献の検討①ー自然地理（地形・地質）ー	同上
	21	地域調査に向けての文献の検討②ー自然地理（気候・水文）ー	同上
	22	地域調査に向けての文献の検討③ー人文地理（村落の景観）ー	同上
	23	地域調査に向けての文献の検討④ー人文地理（村落の社会構造）ー	同上
	24	地域調査の実施①	同上
	25	地域調査の実施②	同上
	26	地域調査の実施③	同上
	27	地域調査の結果集計	同上
	28	地域調査の結果の分析	同上
	29	地域調査の結果のまとめ	同上
30	報告書のまとめと製本①	同上	
31	報告書のまとめと製本②	同上	

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に指定はない。毎回、プリントを配布する。 <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有齒正一郎・遠藤匡俊・小野寺淳・古田悦造・溝口常俊・吉田俊弘編著『歴史地理調査ハンドブック』古今書院
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールド調査を行う場合は、週末や夏休みに実施することもある。 ・調査の全段階（調査計画、調査票作成、調査データの集計・分析、報告書作成）において、受講生は主体的に関わること。 ・調査はグループ単位で行うので、メンバー内のコミュニケーションを大事にして下さい。
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点：講義中の課題提出と発表（40点） ・フィールド調査のレポート（60点）
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域調査の方法をフィールドで体得することで、「地域」への理解を深める。

※ポリシーとの関連性 自らの問題意識のもと、フィールド（現場）に出て積極的に情報を集め、考え、判断し、主体的に行動することができる人物を培う。 [/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会生活課題研究Ⅰ	通年	月3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	3年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@okiu.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい 本講義は、博物館活動を模擬的に体験する講義と実習を行う。博物館機能における、「調査・研究」「展示」「教育」を体験的に学び学芸員としての知識や技術の習得を目指す。	メッセージ 【実務経験】博物館における実務経験を活かして、博物館運営や遺跡発掘経営について解説する。
	到達目標 豊かな思考力でモノ資料を探求し、展示や教育普及事業等とおし表現する技術を習得できる。博物館実習に必要な基礎的な技術が習得できる。	

学びの準備	到達目標 豊かな思考力でモノ資料を探求し、展示や教育普及事業等とおし表現する技術を習得できる。博物館実習に必要な基礎的な技術が習得できる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1. ガイダンス（講義の目的、進め方について） 2～3. 資料調査（本年度の企画展示内容は、「お金でたどる沖縄の歴史」を予定する） 4～7. 企画会議 8～9. 展示解説シートの作成（イラストレーターの方法・等） 10～11. 資料収集 12～13. 資料作成 14～15. 中間報告 16. 後期ガイダンス 17～26. 展示会準備・展示資料製作・搬入 12月頃（予定）に2週間程度展示会開催 1月頃（予定）に国頭村での企画展を予定。 企画展に関する関連イベントを開催 28～29. 片付け、お礼状送付、報告書作成 31. レポート提出 ※学外ゼミを企画し、他大学との合同ゼミ、博物館見学等を計画する。 ※時間外の学習として、博物館を訪ね展示会を多く見学し、社会教育施設で催行されている事業に積極的に参加すること。
	テキスト・参考文献・資料など テキストとして下記文献を用いる。 宮城弘樹2010「中世の銭と琉球王国」『沖縄県史 古琉球』各論編3 沖縄県教育委員会 授業では、適宜参考文献等を提示する。 自ら資料を調べ展示物を作成し、仲間と共に協力し学び合うことを重視し、演習形式で授業を進める。
	学びの手立て 履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 ・作業時間として授業を延長することもある。 ・それぞれが展示資料づくりを行うため、自ら調査、資料収集、展示物製作を行う。 ・博物館資格取得科目である「博物館学概論」「博物館資料論」「博物館教育論」を事前に受講しているとより理解が早い。但し、博物館学芸員資格取得を目指す学生以外の受講生にも本講義を理解できるよう配慮する。
	評価 課題（50%） 平常点（50%）

学びの継続	次のステージ・関連科目 企画展づくりをおとして、調べるだけでなく調べたことを表現する能力を身につけ、仲間と共同で作業をすることの大切さを学ぶ。 上位科目としては「博物館実習Ⅰ・Ⅱ」を位置づける。博物館実習前の受講を推奨する。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会生活課題研究 I	通年	水 3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	金城 敬太	3年	keita.kinjo@okiu.ac.jp に連絡すること。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、様々な分野で利用が必要となる、データ処理とその統計的な分析について、実際に調査の仕方を通してデータの収集を学び、次にパソコンを用いた分析を行っていききたいと思います。表計算ソフトであるExcelやRを用いて、受講者が手を動かしながら、表や統計分析を行っていきます。</p>	<p>中学生レベルの数学で問題ないですがノートや電卓などを持参してください。分からなくなった場合は、授業中・授業後などに質問しにきてください。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前のサーベイ、実験、調査の方法を学ぶ 2. それらのデータの分析方法を学ぶ 3. それらをもとにレポートを作成する方法を学ぶ 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	統計・調査入門	統計の復習（記述統計）
	2	統計の考え方	統計の復習（推測統計）
	3	文献調査 1	日本語文献サーベイ
	4	文献調査 2	英語文献サーベイ
	5	仮説および質問紙作成	レポート作成
	6	中間レポートの発表	質問紙作成・調査実行
	7	調査および集計	データの加工の課題
	8	Excelによる基本統計量・分布作成	基本統計の課題
	9	Excelによるクロス集計表	クロス集計の課題
	10	Excelによる相関・回帰分析	相関の課題
	11	Excelによる回帰分析	回帰分析の課題
	12	その他の分析手法	分析結果のまとめ
	13	発表	コメントの反映
	14	最終レポート作成方法	レポート作成をする
	15	最終レポート作成の手伝い	レポート作成をする
	16	まとめ	全体を復習
	17	R入門	Rの復習
	18	Rプログラミング（変数）	変数の課題をする
	19	Rプログラミング（制御文、関数）	制御文の課題をする
	20	相関その他	相関の課題をする
	21	検定（平均値の差の検定）	検定の課題をする
	22	検定（分散分析など）	検定の課題をする
	23	重回帰分析（考え方）	重回帰の考えを学ぶ
	24	重回帰分析（結果の読み方）	重回帰の課題をする
	25	ロジスティック回帰（考え方と結果の読み方）	ロジスティック回帰の課題
	26	主成分・因子分析(1)（考え方）	因子分析の復習
	27	主成分・因子分析(2)（結果の読み方）	因子分析の課題
	28	共分散構造分析（考え方）	SEMの復習・サーベイ
	29	共分散構造分析（結果の読み方）	SEMの課題
30	クラスタリング	最終レポート作成	
31	最終発表	全体の復習	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 適宜資料は配布する</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回板書をするので、それを各自ノートを記載してください。 ・毎回、パソコンなどを利用して課題をやってもらい、最終的にその課題をチェックします。
	<p>評価</p> <p>最終レポート（30%）、平常点（各回の課題と参加状況など）を70%で総合的に評価する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>統計学1と2が関連する</p>

※ポリシーとの関連性 本学カリキュラムポリシーに即し、学問的関心の喚起をめざす科目である。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会生活課題研究Ⅱ	通年	水5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	野見 収	4年	研究室：5号館5階5514 E-mail:onomi(at)okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>広く人間の成長・変容に関わる問いを教育学、哲学、精神分析の観点から探究する。本当の自分とは何か？死んだらどうなるのか？なぜ自分は生まれてきたのか？こうした、人生にまつわる素朴な問いを、演習形式であらためて考えなおしてみたい。</p>	<p>「社会生活課題研究Ⅰ」（野見クラス）の単位を取得済みでなければ受講できない。</p>

到達目標	葛藤を葛藤のままにひきうけるしなやかな思考を身につける。
------	------------------------------

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>【前期】</p> <p>第1回 インTRODクシヨン・自己紹介・発表担当決め</p> <p>第2回～第14回 発表とディスカッション（検討文献『魂のアイデンティティ』）</p> <p>第15回 前期まとめ</p> <p>【後期】</p> <p>第16回～第29回 発表とディスカッション（検討文献『誕生のインファンティア』）</p> <p>第30回 総合まとめ</p> <p>※発表資料の作成は時間外学習で行うことになる。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>西平直『魂のアイデンティティ』金子書房、1998年。</p> <p>西平直『誕生のインファンティア』みすず書房、2015年。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>無断欠席・遅刻は認めない。各人、前後期あわせて二回以上の発表（検討文献にたいする考察・論点の提示）を課す。</p>
	<p>評価</p> <p>発表（60%）、授業参加度（40%）。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文</p>
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会生活課題研究Ⅱ	通年	水3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	金城 敬太	4年	keita.kinjo@okiu.ac.jp に連絡すること。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では、様々な分野で利用が必要となる、データ処理とその統計的な分析について、実際に調査の仕方を通してデータの収集の仕方を学び、次にパソコンを用いた分析を行っていききたいと思います。表計算ソフトであるExcelやRを用いて、受講者が手を動かしながら、表や統計分析を行っていきます。これらは社会に出てからも利用できるスキルになります。</p>	<p>中学生レベルの数学で問題ないですがノートや電卓などを持参してください。分からなくなった場合は、授業中・授業後などに質問しにきてください。</p>

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事前のサーベイ、実験、調査の方法を学ぶ 2. それらのデータの分析方法を学ぶ 3. それらをもとにレポートを作成する方法を学ぶ
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	統計・調査入門	統計の復習
	2	統計の考え方	統計の復習
	3	文献調査 1 (論文の探し方)	文献サーベイ
	4	文献調査 2 (論文の読み方)	文献サーベイ
	5	仮説および質問紙作成	レポート作成
	6	中間レポートの発表	質問紙作成・調査実行
	7	調査および集計	データの加工の課題
	8	Excelによる基本統計量・分布作成	基本統計の課題
	9	Excelによるクロス集計表	クロス集計の課題
	10	Excelによる相関・回帰分析	相関の課題
	11	Excelによる回帰分析	回帰分析の課題
	12	その他の分析手法	分析結果のまとめ
	13	発表	コメントの反映
	14	最終レポート作成方法	レポート作成をする
	15	最終レポート作成の手伝い	レポート作成をする
	16	まとめ	全体を復習
	17	R入門	Rの復習
	18	Rプログラミング (変数)	変数の課題をする
	19	Rプログラミング (制御文、関数)	制御文の課題をする
	20	相関その他	相関の課題をする
	21	検定 (平均値の差の検定)	検定の課題をする
	22	検定 (分散分析など)	検定の課題をする
	23	重回帰分析 (考え方)	重回帰の考えを学ぶ
	24	重回帰分析 (結果の読み方)	重回帰の課題をする
	25	ロジスティック回帰 (考え方と結果の読み方)	ロジスティック回帰の課題
	26	主成分・因子分析(1) (考え方)	因子分析の復習
	27	主成分・因子分析(2) (結果の読み方)	因子分析の課題
	28	共分散構造分析 (考え方)	SEMの復習・サーベイ
	29	共分散構造分析 (結果の読み方)	SEMの課題
30	クラスタリング	最終レポート作成	
31	最終発表	全体の復習	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など 適宜資料は配布する</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回板書をするので、それを各自ノートを記載してください。 ・毎回、PCなどで課題をやってもらい、最終的にその課題をチェックします。
	<p>評価</p> <p>最終レポート（30%）、平常点（各回の課題と参加状況など）（70%）で総合的に評価。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>統計学1と2が関連する</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会生活課題研究Ⅱ	通年	火4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	4年	sakahama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	人文地理学・歴史地理学による地域調査・社会調査の方法を体得する。調査内容は、(1)集落景観調査（地形・地質・水文などの自然環境調査と民家形式調査）及び(2)社会空間調査（親族組織・祭祀組織の空間的關係）に関して、本部町にある2集落を選定して調査を実施する。	野外科学としての人文地理学・歴史地理学の方法について、現場において体得します。調査については、事前準備、現場での調査内容・方法の検討、調査後の報告書作成など、チームワークが必要とされる場面もあります。沖縄の地理空間に関心のある学生の参加を期待します。
到達目標	人文地理学・歴史地理学による地域調査・社会調査の方法を体得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	人文地理学における地域調査の目的と役割	シラバスをよく読むこと
	2	地域調査の種類と方法について	事前に配ったプリントを読むこと
	3	データの取得と活用方法	同上
	4	地域調査における文献の検討①－自然地理－	同上
	5	地域調査における文献の検討②－人文地理－	同上
	6	地域調査におけるデータの取得	同上
	7	地域調査における地図化作業の意味	同上
	8	地形図の利用①－縮尺・等高線・地図記号－	同上
	9	地形図の利用②－読図－	同上
	10	地形図の利用③－読図の比較－	同上
	11	国土基本図の利用方法	同上
	12	地籍図・住宅地図の利用方法	同上
	13	空中写真の利用方法	同上
	14	地図を用いた地域調査の企画	同上
	15	地図を用いた地域調査の設計	同上
	16	地域調査の企画・設計①－調査の目的－	同上
	17	地域調査の企画・設計②－調査の種類と方法－	同上
	18	データの取得方法と仮説の検討	同上
	19	データの取得方法と仮説の設定	同上
	20	地域調査に向けての文献の検討①－自然地理（地形・地質）－	同上
	21	地域調査に向けての文献の検討②－自然地理（気候・水文）－	同上
	22	地域調査に向けての文献の検討③－人文地理（村落の景観）－	同上
	23	地域調査に向けての文献の検討④－人文地理（村落の社会構造）－	同上
	24	地域調査の実施①	同上
	25	地域調査の実施②	同上
	26	地域調査の実施③	同上
	27	地域調査の結果集計	同上
	28	地域調査結果の分析	同上
	29	地域調査のまとめ	同上
30	報告書のまとめと製本①	同上	
31	報告書のまとめと製本②	同上	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】 ・特に指定はない。毎回、プリントを配布する。</p> <p>【参考文献】 ・有蘭正一郎・遠藤匡俊・小野寺淳・古田悦造・溝口常俊・吉田敏弘編著 『歴史地理調査ハンドブック』古今書院</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールド調査を行う場合は、週末や夏休みに実施することもある。 ・調査の全段階（調査計画、調査票作成、調査データの集計・分析、報告書作成）において、受講生は主体的に関わること。 ・調査はグループ単位で行うので、メンバー内のコミュニケーションを大事にしてください。
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点：講義中の課題提出と発表内容（40点） ・フィールド調査のレポート（60点）
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域調査の方法をフィールドで体得することで、「地域」への理解を深める。

※ポリシーとの関連性

自らの問題意識のもと、フィールド（現場）に出て積極的に情報を集め、考え、判断し、主体的に行動することができる人物を培う。

[/演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会生活課題研究Ⅱ	通年	月3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	4年	問い合わせ先 E-mail「h.miyagi@okiu.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい 本講義は、博物館活動を模擬的に体験する講義と実習を行う。博物館の展示、教育等に関する論文を作成し、学芸員としての知識や技術の習得を目指す。	メッセージ 【実務経験】博物館における実務経験を活かして、博物館での実際の企画展づくりなど実務を学びます。
	到達目標 豊かな思考力でモノ資料を探求し、博物館における展示や教育普及事業を調査研究し、博物館運営について考えることができる。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス（講義の目的、進め方について） 2～3. 資料調査（本年度の企画展示内容は、「お金でたどる沖縄の歴史」を予定する） 4～7. 企画会議 8～9. 展示解説シートの作成（イラストレーターの方法・等） 10～11. 資料収集 12～13. 資料作成 14～15. 中間報告 16. 後期ガイダンス 17～26. 展示会準備・展示資料製作・搬入 12月頃（予定）に2週間程度展示会開催 1月頃（予定）に国頭村での企画展を予定。 <p>企画展に関する関連イベントを開催 28～29. 片付け、お礼状送付、報告書作成 31. レポート提出</p> <p>※学外ゼミを企画し、他大学との合同ゼミ、博物館見学等を計画する。 ※時間外の学習として、博物館を訪ね展示会を多く見学し、社会教育施設で催行されている事業に積極的に参加すること。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストとして下記文献を用いる。 宮城弘樹2010「中世の銭と琉球王国」『沖縄県史 古琉球』各論編3 沖縄県教育委員会 授業では、適宜参考文献等を提示する。 自ら資料を調べ展示物を作成し、仲間と共に協力し学び合うことを重視し、演習形式で授業を進める。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業時間として授業を延長することもある。 ・それぞれが展示資料づくり、論文執筆のため、自ら調査、資料収集等を行う。 ・上位科目である社会生活課題研究Ⅰを履修すること。
	<p>評価</p> <p>論文（80%）、平常点（20%）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>博物館に関する運営や館活動について文献だけでなく、自ら博物館を訪ねて学ぶ事を推奨する。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 福祉の考え方、歴史の変遷、最新福祉制度の基本的構造を学びます。社会福祉専攻者だけでなく、一般学生も福祉の概要が学べます。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会福祉入門Ⅰ	前期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-竹藤 登	1年	takefuji-n@ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 現代社会における社会福祉の意義、歴史や理念の変遷、社会福祉諸制度の概要など幅広く福祉について学びます。	メッセージ ①社会福祉全般の知識が得られます。②現代社会の福祉最新情報、現場の動きが事例を通して学ぶことができる。③現代社会の福祉課題が認識できる。
	到達目標 社会福祉の全体像が理解できるようになる。各福祉制度の構造、具体的なサービス内容が理解出来る。現代社会の福祉の課題が理解できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	社会福祉とは、社会福祉の視点 医療・保健・福祉の違い	社会福祉の視点を理解
	2	社会福祉の理念の変遷 歴史的背景 ノーマライゼーションの理念	社会福祉の歴史の変遷を理解
	3	社会福祉基礎構造改革 措置制度から契約制度へ 利用者主体	福祉サービスが利用者主体へ
	4	ソーシャルワーカーとは ソーシャルワーカーの役割	福祉専門職の役割の理解
	5	障がいの理解 障がい者の心理的理解	障がいの理解
	6	自立とは 自立支援とは 自己決定の支援	自立の概念の理解
	7	障害者総合支援法の概要	障害者総合支援法の仕組みの理解
	8	介護保険法の概要	介護保険法の仕組みの理解
9	生活保護法の概要	生活保護法の仕組みを理解	
10	児童・家庭福祉法の概要	児童・家庭福祉の仕組みを理解	
11	人権と権利 権利擁護とは(虐待防止法)	人権とは権利とは 権利擁護を理解	
12	権利擁護システム(苦情解決システム オンブズマンシステム)	いろいろな権利擁護システムの理解	
13	成年後見制度の概要 法定後見 任意後見	成年後見制度の理解	
14	成年後見活動の実際 身上監護活動の実際	成年後見活動の理解	
15	成年後見活動事例の実際	成年後見活動の実際	
16	まとめとテスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など 毎回レジュメを配布		
	学びの手立て レジュメに講義の概要をまとめてあるが、講義内容をよく聞いて、その場で理解するように心がける。聞き逃すと授業についていけない場合もあるので、よく聴き、また他の受講生のじゃまにならないように静かに聴講する。専門用語などが分からないときは、その場で質問するか、質問用紙で質問する。		
	評価 ①授業の最後に小レポートの提出で評価45% ②期末テスト評価55%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会福祉入門Ⅱ
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	社会福祉入門Ⅱ	後期	金 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-竹藤 登	1年	takefuji-n@ryukyuu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ソーシャルワークの技術の基本が学べる。ソーシャルワーカーとしての倫理性を理解する。	メッセージ 対人援助の基本を学び、具体的な支援方法をソーシャルワークの技術から学ぶ
	到達目標 ソーシャルワークの基本原則、価値と倫理 具体的なソーシャルワーク技法を学ぶ	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	自己覚知① 自分の特性を理解する。	ライフストーリーを完成する
	2	自己覚知② 自分の価値観を分析する。	色々な場面で自分の価値観を知る
	3	コミュニケーション技法を学ぶ 言語・非言語コミュニケーション	意識したコミュニケーション
	4	具体的な面接技法を学ぶ	面接場面を経験する
	5	他者理解・福祉利用者の困難性を環境因子から考える。	他人を理解すること
	6	価値と倫理 倫理綱領を考える。	専門性を理解する
	7	社会福祉援助技術の基本原則と種類	ソーシャルワークの種類を学ぶ
	8	ケースワークの実際	ケースワークの基本原則
9	グループワークの実際	グループワークの基本原則	
10	コミュニティワークの実際	コミュニティワークの基本原則	
11	ケアマネジメント手法の実際	ケアマネジメントの基本原則	
12	ケアマネジメント演習 アセスメントの実際	ケアマネジメントの手法	
13	社会福祉経営管理の実際	社会福祉経営の具体的な方法	
14	リスクマネジメントの実際	リスクマネジメントの基本原則	
15	スーパービジョンの実際	スーパービジョンの基本原則	
16	まとめとテスト		
	テキスト・参考文献・資料など 毎回レジュメを配布		
	学びの手立て レジュメに講義の概要をまとめてあるが、講義内容をよく聞いて、その場で理解するように心がける。 聞き逃すと授業についていけない場合もあるので、よく聴き、また他の受講生のじゃまにならないように静かに聴講する。 専門用語などが分からないときは、その場で質問するか、質問用紙で質問する。		
	評価 ①授業の最後に小レポートの提出で評価45% ②期末テスト評価55%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会福祉入門Ⅰ
-------	------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	生涯学習概論	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	吉田 肇吾	1年	yoshida@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 社会教育を包括した「生涯学習」の意義と本質、生涯学習社会を支える公共図書館の専門職員に必要な考え方や職務内容を理解する。そのため、教育分野全体の法体系、行財政などを取り上げ、家庭・学校・社会教育の関連性を把握する。さらに、生涯学習社会を支える公共図書館の地域社会への関わりと役割、MLAなどの連携・協力、そして施設を担う専門的職員の機能・役割について解説する。	メッセージ 公共図書館を取り巻く社会変化を把握する。
	到達目標 生涯学習社会への変化の中で、これからの公共図書館と図書館司書は何を考え、どのように行動するのかという、図書館現場における試行的・行動的枠組みをとらえることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	生涯学習の概念	第1～4週：「生涯学習社会とは」について、関連文献での事前調査及び講義内容をまとめる
	2	生涯学習・教育論の展開	
	3	生涯学習社会における家庭・学校・社会教育 1	
	4	生涯学習社会における家庭・学校・社会教育 2	
	5	日本の社会教育	第5～9週：「法体系、自治体の取り組み」について、関連文献での事前調査及び講義内容をまとめる
	6	教育関連の法体系	
	7	自治体の教育行財政	
	8	社会教育の内容・方法・形態	
	9	生涯学習社会と教育施設の関連性	
	10	社会教育施設1-1：公民館：管理・運営・職員	第10～15週：「公共施設の3本柱」について、関連文献での事前調査及び講義内容をまとめる
	11	社会教育施設2-1：博物館：管理・運営・職員	
	12	社会教育施設3-1：公共図書館：管理	及び講義内容をまとめる
	13	社会教育施設3-2：公共図書館：運営方法	(特に図書館司書に重点を置く)
	14	社会教育施設3-3：公共図書館：職員(司書)	
	15	教育関連施設の連携・協力	
	16	試験	
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じてプリントを配布する。		
	学びの手立て 図書館司書資格の修得を目指す人は、1年次に課程の最初の科目として、「図書館概論」で公共図書館の概要を把握する。また「生涯学習概論」では、公共図書館を取り巻く社会の変化の内容と方向性を大きく把握する。なお、当該科目の内容理解のためには、できれば2年次からの履修が望ましい。「学芸員」資格取得の志望者は、社会文化学科開設の同科目を履修すること。		
	評価 平常点(10%)とレポートまたは期末試験(90%)による総合評価とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 司書課程の他科目
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	生涯学習概論	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	1年	問い合わせ先は E-mail「h.miyagi@okiu.ac.jp」です。	

学びの準備	ねらい 生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・施策・行政機関、また家庭教育・学校教育・社会教育との関連、専門的職員の役割、学習活動への支援等について理解する。	メッセージ 【実務経験】地方行政の社会教育現場での実務経験を活かして、社会教育施設等の機能や職員の役割、施設の課題点について考え、実践例を交え生涯学習の意義について学びます。
	到達目標 生涯学習の基本的な考え方を理解し、自分の言葉で説明できる。 生涯学習の考え方にに基づき、自ら学習を提供できるような企画が立案できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	生涯学習社会の意義と生涯学習社会の構築	関連資料を配布するので読むこと
	3	生涯各期の学習課題	関連資料を配布するので読むこと
	4	学校教育・社会教育・家庭教育	関連資料を配布するので読むこと
	5	日本の教育と社会教育行政のあゆみ	関連資料を配布するので読むこと
	6	学習形態と指導者	関連資料を配布するので読むこと
	7	NPO・ボランティアと生涯学習	関連資料を配布するので読むこと
	8	博物館における生涯学習の実践	課題発表
9	美術館における生涯学習の実践	課題発表	
10	図書館・公民館における生涯学習の実践	課題発表	
11	動植物園等における生涯学習の実践	課題発表	
12	公民館等における生涯学習の実践	課題発表	
13	世界の生涯学習	関連資料を配布するので読むこと	
14	生涯学習による地域づくり	関連資料を配布するので読むこと	
15	まとめ	関連資料を配布するので読むこと	
16	テスト	復習を怠らないようにすること	
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。出席確認を毎回厳格に行う。 基本的に講義形式で行い、毎回資料を配布予定。 参考文献①鈴木眞理ほか(編著)2011年『生涯学習の基礎[新版]』学文社。②伊藤俊夫2010年『新訂 生涯学習概論』ぎょうせい。		
	学びの手立て 履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 ・出欠確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前に連絡すること。 ・提出するレポートと課題は、発表期日厳守の上必ず取り組むこと。 ・「博物館学概論」を受講していると理解は早い。もちろん、受講していない学生も本講義を理解できるよう配慮する。		
	評価 課題・テスト(80%)。平常点(20%) ※出欠状況については無断欠席5回以上になると「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 学芸員の視点から広く情報を収集し、多くの学習会等生涯学習事業に積極的に参加すること。関連・上位科目として「博物館教育論」、「博物館実習Ⅰ・Ⅱ」
-------	--

※ポリシーとの関連性

社会で起きている事柄をジェンダーの視点から考察し、論理的な思考力を養い、多様な価値観を尊重する能力を身につける。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	女性学	前期	土2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-親川 裕子	1年	ptt1044@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ジェンダーの視点をとおして社会の枠組みや構造、法律などを知る。ジェンダーに関わる多様な諸問題を認識し、課題解決に向けた批判的思考を拓げる。	ジェンダーは「社会的、文化的性差」として、身体的な性差とは異なる概念と認識されています。「女／男らしさ」や「女／男であれば～であるべき」というジェンダー・バイアス（偏見）な考え方で取捨されてきたことそれがいままぜ捉え直されているのかを考えてみたいと思います。
到達目標	本講義では、まず世界や日本におけるジェンダー研究の成り立ちを踏まえ、ジェンダー的視点や思考について理解し、批判的視野を広げる。（特に専門的なジェンダー理論の習得を目指すものではないが、希望する学生には個別に対応する）具体的には伝統や慣習に内在するジェンダー、就職、結婚や離婚、出産、育児、介護といったライフステージにおけるジェンダー的課題について、必ずしもジェンダー・バイアスから自由では無い事象とは何か知見を広げることを試みる。さらに、性暴力・性の多様性・メディア・表象など、社会のあらゆる場面で起きているジェンダーに派生する社会問題について身近な問題として捉え、どのような問題解決の糸口が探れるのかを分析・考察していく。後半では沖縄に内在する様々な諸問題をジェンダー的視点から考える。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	「女性学」ガイダンス：ジェンダー概論	
	2	日本におけるジェンダー（論／学／スタディーズ）	女性差別撤廃条約の概要を理解
	3	アンコンシャス・バイアス	新聞からジェンダー関連記事の収集
	4	教育カリキュラムにおけるジェンダー ～隠れたカリキュラム～	上記関連記事についての調査
	5	職業、労働に見るジェンダー	上記調査結果について感想
	6	育児、介護におけるジェンダー	雑誌からジェンダー関連記事の収集
	7	親密圏におけるジェンダー ～DV, 性虐待, デートレイプ～	上記関連記事についての調査
8	学生と性暴力	中間レポート作成用の課題設定	
9	性暴力と法	中間レポート作成用資料収集	
10	ダイバーシティ&インクルージョン	ジェンダー関連文献選定	
11	女性と貧困	中間レポート用調査、分析	
12	ジェンダーの視点から考える人権①	中間レポート作成提出	
13	ジェンダーの視点から考える人権②	目取真俊『虹の鳥』『目の奥の森』	
14	ジェンダーの視点から考える人権③	目取真俊『虹の鳥』『目の奥の森』	
15	沖縄・ジェンダー マイノリティ女性、複合差別を考える	期末試験用課題設定資料収集	
16	期末試験：筆記、レポート形式	期末試験用課題設定資料収集	
実践	テキスト・参考文献・資料など		
	教科書は無く、都度、講義で資料を配布します。参考文献についても講義の中で適宜、提示しますが、広く、ジェンダー関連の書籍に積極的に触れる機会を作ってください。		
	学びの手立て		
	○履修の心構え 遅刻、私語、居眠りには厳しく減点します。 新聞の購読（地元紙は特に）必須。		
	○学びを深めるために 講義毎にレスポンスシートを書いて提出していただきます。		
	評価		
	レスポンスシートのコメントを講義への参加度とみなし40%、 中間レポート30%、期末筆記試験30%のバランスで評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	○関連科目：ジェンダーをより専門的に理解したい場合は社会学、国際政治学の知見も有効。また、沖縄近現代史など沖縄の歴史の講義は、弱者や「他者」、「人権」といった概念について理解を深めることができるでしょう。○次のステージ：批判的視点をより広げるために日頃から新聞や雑誌（文芸誌など）を読む習慣をつけ、自分の言葉で考えをまとめる作業を続けてほしいと思います。

※ポリシーとの関連性

複雑な構造をもつ社会のメカニズムおよびそこにおける文化や生活を解説するための知見を、政治学の成果から提供する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	政治学Ⅰ	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	芝田 秀幹	1年	hidekis@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	政治学をはじめ本格的に学ぶ者のために、政治の原理、政治構造、政治の作動などについて全般的に理解できるように講義する。とりわけ、「政治学Ⅰ」では「現代日本の政策形成」について詳しく、そしてわかりやすく話をしたい。また、現実が生じている政治的な諸問題についても随時言及し、それらを解決するための「ヒント」を学問的見地から提供したい。	「政治」について議論すること、「政治学」について議論することとは異なる。また、現実社会の政治運動のために「政治学」があるわけでも全くない。あくまで、「学問」としての「政治学」の研究成果を学ぶのだ、という意識で授業に臨んでもらいたい。
到達目標	政治学上の基礎概念を理解できる。現代の我が国の政策形成過程を理解できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講オリエンテーション	政治学Ⅰの概要について理解
	2	政策形成過程(1)：省庁	プリント指定箇所の予習復習
	3	政策形成過程(2)：与党	プリント指定箇所の予習復習
	4	政策形成過程(3)：内閣	プリント指定箇所の予習復習
	5	政策形成過程(4)：国会	プリント指定箇所の予習復習
	6	政策形成過程(5)：「ヴィスコシティ」	プリント指定箇所の予習復習
	7	政策遂行過程(1)：行政立法	プリント指定箇所の予習復習
8	政策遂行過程(2)：族議員	課題レポートへの取り組み	
9	政策遂行過程(3)：利益団体	プリント指定箇所の予習復習	
10	天下り(1)	プリント指定箇所の予習復習	
11	天下り(2)	プリント指定箇所の予習復習	
12	入札と談合	プリント指定箇所の予習復習	
13	談合の実態	プリント指定箇所の予習復習	
14	談合と沖縄	プリント指定箇所の予習復習	
15	講義のまとめ	試験対策	
16	試験	試験後チェック	
実践	テキスト・参考文献・資料など	使用しない。プリントを適宜配布。参考書は開講時に指定。	
学びの手立て	私語は厳禁。真面目に授業を聞こうとする学生を、私語で邪魔をする権利は受講者の誰にもないはずである。また、日々生起する様々な政治問題に触発されつつ考える習慣を身に付けてほしい。		
評価	定期試験の結果70%、課題レポート20%、リアクションペーパー10%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「政治学Ⅱ」をあわせて履修することが望ましい。
-------	--

※ポリシーとの関連性

複雑な構造をもつ社会のメカニズムおよびそこにおける文化や生活を解説するための知見を、政治学の成果から提供する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	政治学Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	芝田 秀幹	1年	hidekis@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	政治学をはじめ本格的に学ぶ者のために、政治学上の基礎概念を解説するとともに、政治の原理、政治構造、政治の作動などについて全般的に理解できるように講義する。とりわけ、「政治学Ⅱ」では現代政治学の基本理論を整理・紹介するとともに、現実に生じている政治的な諸問題についても随時言及し、それらを解決するための「ヒント」を学問的見地から提供したい。	「政治」について議論すること、「政治学」について議論することとは異なる。また、現実社会の政治運動のために「政治学」があるわけでも全くない。あくまで、「学問」としての「政治学」の研究成果を学ぶのだ、という意識で授業に臨んでもらいたい。
到達目標	政治学上の基礎概念を理解できる。現代政治学の成果を理解できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講オリエンテーション：「居酒屋政治談議」を超えて	政治学の概要の復習
2	政治	プリント指定箇所の予習復習	
3	政治学	プリント指定箇所の予習復習	
4	政治権力	プリント指定箇所の予習復習	
5	政治体制	プリント指定箇所の予習復習	
6	政治過程	プリント指定箇所の予習復習	
7	選挙（1）	プリント指定箇所の予習復習	
8	選挙（2）	レポート課題への取り組み	
9	政党（1）	プリント指定箇所の予習復習	
10	政党（2）	プリント指定箇所の予習復習	
11	官僚制	プリント指定箇所の予習復習	
12	利益集団・市民運動	プリント指定箇所の予習復習	
13	マスメディア	プリント指定箇所の予習復習	
14	地方自治	プリント指定箇所の予習復習	
15	講義のまとめ	試験対策	
16	試験	試験後チェック	
実践	テキスト・参考文献・資料など プリントを随時配布。参考書は開講時に指定。		
学びの手立て	私語は厳禁。真面目に授業を聞こうとする学生を、私語で邪魔をする権利は受講者の誰にもないはずである。また、日々生起する様々な政治問題に触発されつつ考える習慣を身に付けてほしい。		
評価	定期試験の結果70%、課題レポート20%、リアクションペーパー10%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「政治学Ⅰ」をあわせて履修することが望ましい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地理学 I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	1 年	sakihama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>地理学には、自然環境と人間・社会環境を総合的に記述する地誌学と、自然環境を主に考証する自然地理学、さらには人文・社会現象を主に考証する人文地理学による分類がある。総じて言えることは、「自然と人間」「空間・場所と人間」との関わりを明らかにすることが地理学の役割である。本講義では、地誌学的視点から世界の諸地域を俯瞰する。</p>	<p>世界の地理的環境について、スライド・映像資料などを用いながら、わかりやすく講義します。</p>

到達目標	世界の諸地域における地理的環境を学び、それが人間生活に強く影響していることを理解する。
------	---

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 地理学の成立と本質 2 地図の歴史 3 地図の利用方法 4 地域と景観①－韓国・濟州島の自然環境－ 5 地域と景観②－韓国・濟州島の歴史景観－ 6 地域と景観③－ミクロネシア地域の自然環境－ 7 地域と景観④－ミクロネシア地域の歴史地理－ 8 地域と景観⑤－台湾の自然環境－ 9 地域と景観⑥－台湾の歴史地理－ 10 地域と景観⑦－中国・福建省－ 11 環境と生態①－乾燥地域の環境－ 12 環境と生態②－湿潤地域の環境－ 13 環境と生態③－熱帯地域の環境－ 14 環境と生態④－寒帯地域の環境－ 15 環境と生態⑤－東京におけるヒートアイランド現象－ 16 期末試験
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【テキスト】 ・特に指定はない。毎回、プリントを配布する。</p> <p>【参考文献】 ・講義の中で適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義中に課題を出す場面が多くあり、時間内で提出すること。 ・地図帳を持参して講義に参加すること。
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト（60点） ・平常点：講義中の課題提出（40点）

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の諸地域における地理的環境を理解し、後期開講する地理学Ⅱに繋げる。
-------	---

※ポリシーとの関連性

社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能を身に付け、良識を養うための共通科目の提供。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地理学Ⅰ	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	1年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>地理学は地球上の自然環境や産業、文化などについて、地域という視点から考察する総合科学である。地理学Ⅰでは、地球上の自然環境と資源と産業について学習する。必要に応じて、パワーポイント(スライド)やビデオ教材の利用、参考文献の紹介、講義関連資料等の配布も随時行う予定である。</p>	<p>新聞、テレビ・ラジオ、ネットの自然環境や経済に関するニュースに関心を持ち、つねにニュース現場の場所を地図で調べる習慣を身につけてもらいたい。</p>
到達目標	地理的なものの見方、考え方を習得してもらう。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	地理学とは?	資料地理の研究、プリントの復習
	2	地形と気候 ①	資料地理の研究、プリントの復習
	3	地形と気候 ②	資料地理の研究、プリントの復習
	4	地形と気候 ③	資料地理の研究、プリントの復習
	5	植生と土壌、水資源について	資料地理の研究、プリントの復習
	6	自然災害と環境問題①	資料地理の研究、プリントの復習
	7	自然災害と環境問題②	資料地理の研究、プリントの復習
8	世界と日本の農業①	資料地理の研究、プリントの復習	
9	世界と日本農業②	資料地理の研究、プリントの復習	
10	世界と日本農業③	資料地理の研究、プリントの復習	
11	世界と日本の林業・水産業	資料地理の研究、プリントの復習	
12	エネルギーと資源	資料地理の研究、プリントの復習	
13	世界と日本の工業地域①	資料地理の研究、プリントの復習	
14	世界と日本の工業地域②	資料地理の研究、プリントの復習	
15	世界と日本の工業地域③	資料地理の研究、プリントの復習	
16	テスト		
テキスト・参考文献・資料など	<p>『新詳 資料地理の研究』、帝国書院 定価980円 『新詳高等地図』、帝国書院 1,500円 授業の中でその都度紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>1. 授業で取り扱った内容の場所を地図帳で確認すること。 2. 板書内容はきちんとノートすること。 3. 私語厳禁。</p>		
評価	<p>テスト【50点】、レポート(2回)【50点】で評価する。</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 地理学Ⅱ、沖縄の地理
-------	---------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地理学Ⅱ	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	1年	sakihama@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>地理学には、自然環境と人文環境について総合的に記述する地誌学と、自然環境を主に考証する自然地理学、さらには人文・社会現象を主に考証する人文地理学による分類がある。総じて言えることは、「自然と人間」「人間と空間・場所」との関わりを明らかにすることが地理学の役割である。本講義では、人文地理学・経済地理学による「立地論」の視点から、地域の諸相をみていく。</p>	<p>立地論から地域の特性をみていきます。また人口・産業・交通などの分布・変容などから地域形成のパターンを読み解きます。</p>
到達目標	立地論の視点を理解する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	地理学と地図①-地図の歴史-	事前に配ったプリントを読むこと
	3	地理学と地図②-日本の地図-	同上
	4	農業立地論①-チューネンの農業立地論-	同上
	5	農業立地論②-日本農業-	同上
	6	農業立地論③-沖縄農業-	同上
	7	工業立地論①-ウェーバーの工業立地論-	同上
8	工業立地論②-日本(関東地方)の工業立地-	同上	
9	工業立地論③-日本(中京・関西地方)の工業立地-	同上	
10	都市の立地①-アメリカの都市-	同上	
11	都市の立地②-日本の都市-	同上	
12	沖縄の都市空間①-沖縄コナベーションの特性-	同上	
13	沖縄の都市空間②-先島諸島の都市空間-	同上	
14	地理学と生活空間①-都市化による地域変容-	同上	
15	地理学と生活空間②-過疎化による地域変容-	同上	
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】 ・特に指定はない。毎回、プリントを配布する。 【参考文献】 ・講義の中で適宜紹介する。</p>		
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・講義中に課題を出す場面が多くあり、時間内でまとめて提出すること。 ・地図帳を持参して講義に参加すること。 		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テスト(60点) ・平常点: 講義中の課題提出(40点) 		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>世界の諸地域における地理的特性について、立地論の視点から理解することで、他の社会科学系科目(経済学・社会学・行政学など)の成果と有機的に繋がることことができる。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能を身に付け、良識を養うための共通科目の提供。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地理学Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	1年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 地理学は地球上の自然環境や産業、文化などについて、地域という視点から考察する総合科学である。地理学Ⅱでは、地図とGIS、地理学の歴史、生活文化とグローバル化について学習する。必要に応じて、パワーポイント(スライド)やビデオ教材の利用、参考文献の紹介、講義関連資料等の配布も随時行う予定である。	メッセージ 新聞、テレビ・ラジオ、ネットの自然環境や経済に関するニュースに関心を持ち、つねにニュース現場の場所を地図で調べる習慣を身につけてもらいたい。
	到達目標 地理的なものの見方、考え方を習得してもらう。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	生活空間の拡大と地図の発達	資料地理の研究、プリントの復習
	2	地形図の活用の仕方(1)	資料地理の研究、プリントの復習
	3	地形図の活用の仕方(2)	資料地理の研究、プリントの復習
	4	地理情報システムとリモートセンシング	資料地理の研究、プリントの復習
	5	認知地図と時間地理学	資料地理の研究、プリントの復習
	6	村落と都市(1)	資料地理の研究、プリントの復習
	7	村落と都市(2)	資料地理の研究、プリントの復習
	8	消費と余暇行動	資料地理の研究、プリントの復習
	9	人口と食糧(1)	資料地理の研究、プリントの復習
	10	人口と食糧(2)	資料地理の研究、プリントの復習
	11	交通と通信	資料地理の研究、プリントの復習
	12	貿易と経済的な結びつき	資料地理の研究、プリントの復習
	13	国家と民族・文化	資料地理の研究、プリントの復習
	14	地域開発	資料地理の研究、プリントの復習
	15	21世紀の地理学ーこれからの地理学ー	資料地理の研究、プリントの復習
	16	テスト	
	テキスト・参考文献・資料など 『新詳 資料地理の研究』、帝国書院 定価980円 『新詳高等地図』、帝国書院 1,575円 授業の中でその都度紹介する。		
	学びの手立て 1. 授業で取り扱った内容の場所を地図帳で確認すること。 2. 板書内容はきちんとノートすること。 3. 私語厳禁。		
	評価 成績は、テスト【50点】、レポート(2回)【50点】で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 地理学Ⅱ、沖縄の地理
-------	---------------------------

※ポリシーとの関連性

学部にかかわらず、社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能を身に付け、良識を養うための科目の一つです。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本国憲法	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田中 佑佳	1年	基本的には、授業後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本授業では、日本国憲法の主に「人権論」を体系的に解説します。授業を通じて、私たちの日々の生活と日本国憲法とが密接な関係にあることを認識し、各自の専攻分野や将来の進路に照らして、憲法問題について考える契機になることを目的とします。</p>	<p>憲法は人権保障と日本の国のかたちを規定する国の最高法規です。特に、憲法制定から約70年が経ち、「今」の社会における憲法のあり方が広く議論されている現在、有権者のみなさんにとっても、より密接した存在になるものだと思います。この機会に、身近な問題から一緒に考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>本授業では、①憲法の基本的な知識を習得すること、②私たちが生活する社会において起こる憲法問題を発見し、読み解く力を培うこと、③憲法問題について、論理的に説明する力を身につけること、を目標とします。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読む。
	2	憲法とは何か	配布資料を読む。
	3	人権総論	テキストP14～18を読む。
	4	幸福追求権①	テキストP19～22を読む。
	5	幸福追求権②	テキストP19～22を読む。
	6	平等権①	テキストP23～29を読む。
	7	平等権②	テキストP23～29を読む。
	8	平等権③	テキストP23～29を読む。
	9	平等権④	テキストP23～29を読む。
	10	思想・良心の自由と信教の自由	テキストP30～33を読む。
	11	表現の自由①	テキストP34～40を読む。
	12	表現の自由②	テキストP34～40を読む。
	13	経済的自由権	テキストP42～44を読む。
14	社会権	テキストP49～54を読む。	
15	全体のまとめ、復習、+αの回	授業内容の不明点を確認する。	
16	期末試験	授業内容の不明点を確認する。	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：初宿正典編『目で見える憲法【第5版】』（有斐閣、2018年）（参考価格：1,600円＋税） 授業は、テキストと各テーマごとに配布するレジュメ用いて進めます。</p> <p>参考文献：必要に応じて授業でも紹介する予定ですが、例えば、君塚正臣編『ベーシックテキスト憲法【第3版】』（法律文化社、2017年）、初宿正典編『いちばんやさしい憲法入門【第5版】』（有斐閣、2017年）などをあげておきます。</p>		
学びの手立て	<p>授業時における授業内容の理解を促進するためにも、各回のテーマについて予習をすることが望ましいです。また、各回の授業には連続性があるため、復習をして次の授業に臨んでください。学習の方法例などは、授業時に適宜お伝えします。</p>		
評価	<p>授業で扱った事項について、基本的な知識を習得し、それをもとに論理的に考え論ずることができるかで評価します（期末試験100%）。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目として法学があります。さらに、各自の興味、関心、将来の目標に沿った科目を履修する際にも、日本国憲法での学習を踏まえて、憲法との関連を意識されながら有効に活用されると良いと思います。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

学部にかかわらず、社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能を身に付け、良識を養うための科目の一つです。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本国憲法	前期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田中 佑佳	1年	基本的には、授業後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本授業では、日本国憲法の主に「人権論」を体系的に解説します。授業を通じて、私たちの日々の生活と日本国憲法とが密接な関係にあることを認識し、各自の専攻分野や将来の進路に照らして、憲法問題について考える契機になることを目的とします。</p>	<p>憲法は人権保障と日本の国のかたちを規定する国の最高法規です。特に、憲法制定から約70年が経ち、「今」の社会における憲法のあり方が広く議論されている現在、有権者のみなさんにとっても、より密接した存在になるものだと思います。この機会に、身近な問題から一緒に考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>本授業では、①憲法の基本的な知識を習得すること、②私たちが生活する社会において起こる憲法問題を発見し、読み解く力を培うこと、③憲法問題について、論理的に説明する力を身につけること、を目標とします。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読む。
	2	憲法とは何か	配布資料を読む。
	3	人権総論	テキストP14～18を読む。
	4	幸福追求権①	テキストP19～22を読む。
	5	幸福追求権②	テキストP19～22を読む。
	6	平等権①	テキストP23～29を読む。
	7	平等権②	テキストP23～29を読む。
8	平等権③	テキストP23～29を読む。	
9	平等権④	テキストP23～29を読む。	
10	思想・良心の自由と信教の自由	テキストP30～33を読む。	
11	表現の自由①	テキストP34～40を読む。	
12	表現の自由②	テキストP34～40を読む。	
13	経済的自由権	テキストP42～44を読む。	
14	社会権	テキストP49～54を読む。	
15	全体のまとめ、復習、+αの回	授業内容の不明点を確認する。	
16	期末試験	授業内容の不明点を確認する。	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：初宿正典編『目で見える憲法【第5版】』（有斐閣、2018年）（参考価格：1,600円＋税） 授業は、テキストと各テーマごとに配布するレジュメ用いて進めます。</p> <p>参考文献：必要に応じて授業でも紹介する予定ですが、例えば、君塚正臣編『ベーシックテキスト憲法【第3版】』（法律文化社、2017年）、初宿正典編『いちばんやさしい憲法入門【第5版】』（有斐閣、2017年）などをあげておきます。</p>		
学びの手立て	<p>授業時における授業内容の理解を促進するためにも、各回のテーマについて予習をすることが望ましいです。また、各回の授業には連続性があるため、復習をして次の授業に臨んでください。学習の方法例などは、授業時に適宜お伝えします。</p>		
評価	<p>授業で扱った事項について、基本的な知識を習得し、それをもとに論理的に考え論ずることができるかで評価します（期末試験100%）。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目として法学があります。さらに、各自の興味、関心、将来の目標に沿った科目を履修する際にも、日本国憲法での学習を踏まえて、憲法との関連を意識されながら有効に活用されると良いと思います。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

学部にかかわらず、社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能を身に付け、良識を養うための科目の一つです。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本国憲法	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田中 佑佳	1年	基本的には、授業後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本授業では、日本国憲法の主に「人権論」を体系的に解説します。授業を通じて、私たちの日々の生活と日本国憲法とが密接な関係にあることを認識し、各自の専攻分野や将来の進路に照らして、憲法問題について考える契機になることを目的とします。</p>	<p>憲法は人権保障と日本の国のかたちを規定する国の最高法規です。特に、憲法制定から約70年が経ち、「今」の社会における憲法のあり方が広く議論されている現在、有権者のみなさんにとっても、より密接した存在になるものだと思います。この機会に、身近な問題から一緒に考えていきましょう。</p>
到達目標	<p>本授業では、①憲法の基本的な知識を習得すること、②私たちが生活する社会において起こる憲法問題を発見し、読み解く力を培うこと、③憲法問題について、論理的に説明する力を身につけること、を目標とします。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読む。
	2	憲法とは何か	配布資料を読む。
	3	人権総論	テキストP14～18を読む。
	4	幸福追求権①	テキストP19～22を読む。
	5	幸福追求権②	テキストP19～22を読む。
	6	平等権①	テキストP23～29を読む。
	7	平等権②	テキストP23～29を読む。
	8	平等権③	テキストP23～29を読む。
	9	平等権④	テキストP23～29を読む。
	10	思想・良心の自由と信教の自由	テキストP30～33を読む。
	11	表現の自由①	テキストP34～40を読む。
	12	表現の自由②	テキストP34～40を読む。
	13	経済的自由権	テキストP42～44を読む。
14	社会権	テキストP49～54を読む。	
15	全体のまとめ、復習、+αの回	授業内容の不明点を確認する。	
16	期末試験	授業内容の不明点を確認する。	
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキスト：初宿正典編『目で見える憲法【第5版】』（有斐閣、2018年）（参考価格：1,600円＋税） 授業は、テキストと各テーマごとに配布するレジュメ用いて進めます。</p> <p>参考文献：必要に応じて授業でも紹介する予定ですが、例えば、君塚正臣編『ベーシックテキスト憲法【第3版】』（法律文化社、2017年）、初宿正典編『いちばんやさしい憲法入門【第5版】』（有斐閣、2017年）などをあげておきます。</p>		
学びの手立て	<p>授業時における授業内容の理解を促進するためにも、各回のテーマについて予習をすることが望ましいです。また、各回の授業には連続性があるため、復習をして次の授業に臨んでください。学習の方法例などは、授業時に適宜お伝えします。</p>		
評価	<p>授業で扱った事項について、基本的な知識を習得し、それをもとに論理的に考え論ずることができるかで評価します（期末試験100%）。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目として法学があります。さらに、各自の興味、関心、将来の目標に沿った科目を履修する際にも、日本国憲法での学習を踏まえて、憲法との関連を意識されながら有効に活用されると良いと思います。</p>
-------	--

※ポリシーとの関連性

ビジネス活動において問われている倫理観とは何か。大学在学中に身につけてもらいたい基本的な知識及び考え方を提供する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネスの倫理 I	前期	木 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-親泊 元彦	1年	hcrokinawa@yahoo.co.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ビジネスにおける倫理とは何か、について学んでいく。昨今の企業の不祥事等がメディアで頻繁に取り上げられているが、その背景にあるものに迫る。更に、これからの働き方や職業観についても議論を深める。</p>	<p>グループ学習も取り入れます。毎回、グループを抽選で決めます。「一期一会」の精神で「メンバーに自分の意見をしっかり伝える」「相手の意見をしっかり聞く」ことを意識的に実践し、相互理解を深めます。</p>
到達目標	<p>1. ビジネスにおける倫理観の本質にアプローチし、自分なりの理解が出来るようになること。 2. 様々な成功事例から、その本質を探り、それらをどのように応用するかを考えること。 3. 企業が求める人材の条件を把握し、「あるべき自分創り」に生かすこと。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（講義概要、受講の仕方、ゴール設定）	個人目標の設定
	2	ビジネスにおける倫理とは何か	ビジネスにおける倫理観を考える
	3	企業の社会的使命とは	企業の成り立ちと目的を理解する
	4	企業の存在意義とその価値について	企業の社会での存在意義を考える
	5	社会で働くことの意味・意義について	個人の職業観及び倫理観を考える
	6	事例紹介及びその補足・解説 1	事例から、その本質を学ぶ
	7	事例紹介及びその補足・解説 2	同上
8	事例紹介及びその補足・解説 3	同上	
9	企業の経営理念とは	経営理念と理念経営について	
10	理念経営と社会貢献について	企業の社会的価値を考える	
11	個人の価値観と人生理念について	人生における目的について考える	
12	組織の目標と個人の目標について	ワークライフバランスについて	
13	従業員満足（ES）と顧客満足（CS）について	ES > CSの意味することとは	
14	これからの「ビジネス倫理」のありかた	ES > CSの意味することとは	
15	講義のまとめ	これまでの振り返り	
16	学期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	特に指定はありません。必要に応じて講義の際にプリント・レジュメ等を配布します。		
学びの手立て	<p>毎回講義の始めに、1週間の振り返り（フィードバック）を行います。よって、毎週計画的に過ごすことでフィードバックがスムーズになります。また、1週間のサイクルで繰り返すことで生活のリズムが掴めるようになり、より良い習慣が身に付きます。</p>		
評価	出席状況、受講態度、課題・レポート等の提出及びその内容、学期末試験等を総合的に判断して評価をします。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 個別の質問や相談等に対しては、可能な限り対応します。
-------	---

※ポリシーとの関連性

ビジネス活動において問われている倫理観とは何か。大学在学中に身につけてもらいたい基本的な知識及び考え方を提供する。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネスの倫理Ⅱ	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-親泊 元彦	1年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ビジネスにおける倫理とは何か、について学んでいく。昨今の企業の不祥事等がメディアで頻繁に取り上げられているが、その背景にあるものに迫る。更に、これからの働き方や職業観についても議論を深める。</p>	<p>グループ学習も取り入れます。毎回、グループを抽選で決めます。「一期一会」の精神で「メンバーに自分の意見をしっかりと伝える」「相手の意見をしっかりと聞く」ことを意識的に実践し、相互理解を深めます。</p>
到達目標	<p>1. ビジネスにおける倫理観の本質にアプローチし、自分なりの理解が出来るようになること。 2. 様々な成功事例から、その本質を探り、それらをどのように応用するかを考えること 3. 企業が求める人材の条件を把握し、「あるべき自分創り」に生かすこと。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（講義概要、受講の仕方、ゴール設定）	個人目標を設定する
	2	ビジネスにおける倫理とは何か	ビジネスにおける倫理観を考える
	3	企業の社会的使命とは	企業の成り立ちと目的を理解する
	4	経営資源と経営計画について	システムとしての企業経営を学ぶ
	5	事例研究及びその補足・解説4	事例から、その本質を学ぶ
	6	事例研究及びその補足・解説5	同 上
	7	事例研究及びその補足・解説6	同 上
8	事例研究及びその補足・解説7	同 上	
9	事例研究及びその補足・解説8	同 上	
10	マーケティングとマネジメント	企業経営の二本柱について学ぶ	
11	企業の経営理念とは	経営哲学と理念経営について学ぶ	
12	企業経営と人材育成について	「人が育つ仕掛けと仕組み」を学ぶ	
13	職業観と人生理念について	働く意味・意義・目的について学ぶ	
14	「組織と個人」の将来展望について	「組織と個人」の可能性を学ぶ	
15	講義のまとめ	これまでの振り返り	
16	学期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	特に指定はありません。必要に応じて講義の際にプリント・レジュメ等を配布します。		
学びの手立て	<p>毎回講義の始めに、1週間の振り返り（フィードバック）を行います。よって、毎週計画的に過ごすことでフィードバックがスムーズになります。また、1週間のサイクルで繰り返すことで生活のリズムが掴めるようになり、より良い習慣が身に付きます。</p>		
評価	出席状況、受講態度、課題・レポート等の提出及びその内容、学期末試験等を総合的に判断して評価をします。		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>個別の質問や相談等に対しては、可能な限り対応します。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化人類学Ⅰ	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 理麻	1年	r.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、文化人類学の基本的な視点を学び、人間の文化的多様性と普遍性について理解することを目的とする。異文化理解を通じて、我われにとって自明な枠組みを内省し、普遍的な人間理解へと到達することを目指す。	メッセージ 新しい世界の見方を獲得しましょう。
	到達目標 異文化理解の基礎的な態度である文化相対主義について理解できるようになる。 身体健康と病について、文化の観点から考えることができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	授業時に指摘した文献の講読
	2	文化とは何か	授業時に指摘した文献の講読
	3	異文化理解の方法論：文化相対主義	授業時に指摘した文献の講読
	4	映像にみる自文化中心主義	映像に関連する文献の講読
	5	食文化の対立と多文化主義政策の問題点	授業時に指摘した文献の講読
	6	日本と欧米のイルカ漁論争	授業時に指摘した文献の講読
	7	オランダのイスラム教徒とハラール・ミート：動物の権利か、信仰の自由か	授業時に指摘した文献の講読
	8	身体と文化	授業時に指摘した文献の講読
	9	衣服の文化記号論	授業時に指摘した文献の講読
	10	拒食症の身体感覚：なぜ食べられないのか	授業時に指摘した文献の講読
	11	糖尿病を共に生きる：閉じた自己から開かれた自己へ	授業時に指摘した文献の講読
	12	宗教と医療：沖縄の「医者半分、ユタ半分」	授業時に指摘した文献の講読
	13	精神医療の脱施設化とコミュニティ・ケアの文化	授業時に指摘した文献の講読
	14	べてるの家の当事者研究：病から生き方へ	授業時に指摘した文献の講読
	15	総括	総合的な復習
	16	試験	試験問題のおさらい
	テキスト・参考文献・資料など とくに指定しない。 講義時に重要な文献は随時紹介する。		
	学びの手立て 世界の多様な文化・社会に関わる新聞記事や著作を読み、自らの問題意識を育む。		
	評価 原則として、リアクションペーパーの内容（10%）と試験（90%）によって総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 文化人類学Ⅱ
-------	-----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化人類学Ⅰ	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 博美	1年	講義後に教室にて。または学内メールにて。	

学びの準備	ねらい 他者（異文化）との出会いから始まる文化人類学という学問を通して、異文化についての理解を深めていくと同時に、合わせ鏡としての自己理解、自己（自文化）の相対化、自己内省できる姿勢を身につけていく。	メッセージ 「文化人類学」という学問を通して、世界の新しい見方（視点）を身につけましょう。「文化」は、意識しないと見えてきません。身の回りにある当たり前の世界を一度括弧にいれて、思考的に俯瞰してみることから、「人間とは何か？」という壮大な問いに一步近づいてみましょう！
	到達目標 文化人類学という学問の基礎を学び、「文化」や「他者」の存在を意識化できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	時間外学習の内容																																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ガイダンス</td></tr> <tr><td>2</td><td>文化人類学とは何か？ 文化とは？</td></tr> <tr><td>3</td><td>異文化を捉える方法</td></tr> <tr><td>4</td><td>人類と言語</td></tr> <tr><td>5</td><td>人種、民族とエスニティ</td></tr> <tr><td>6</td><td>人生と時間①</td></tr> <tr><td>7</td><td>人生と時間②</td></tr> <tr><td>8</td><td>人と人のつながり①</td></tr> <tr><td>9</td><td>人と人のつながり②</td></tr> <tr><td>10</td><td>人と人のつながり③</td></tr> <tr><td>11</td><td>信仰・世界観①</td></tr> <tr><td>12</td><td>信仰・世界観②</td></tr> <tr><td>13</td><td>医療と文化</td></tr> <tr><td>14</td><td>「〇〇人類学」の世界 ～「批判知の学」から「実践知の学」へ～</td></tr> <tr><td>15</td><td>ふりかえり（講義全体のまとめ・復習）</td></tr> <tr><td>16</td><td>期末試験（論述式）</td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	1	ガイダンス	2	文化人類学とは何か？ 文化とは？	3	異文化を捉える方法	4	人類と言語	5	人種、民族とエスニティ	6	人生と時間①	7	人生と時間②	8	人と人のつながり①	9	人と人のつながり②	10	人と人のつながり③	11	信仰・世界観①	12	信仰・世界観②	13	医療と文化	14	「〇〇人類学」の世界 ～「批判知の学」から「実践知の学」へ～	15	ふりかえり（講義全体のまとめ・復習）	16	期末試験（論述式）	指定された文献を読む。 指定された文献を読む。 図書館で関連する文献を探す。 指定された資料を読む。 参考資料を読む。 参考資料を読む。 身近な事象を確認する。 参考資料を読む。 図書館で関連する文献を探す。 身近な事象を確認する。 参考資料を読む。 身近な事象を確認する。 参考資料を読む。
	回	テーマ																																		
	1	ガイダンス																																		
2	文化人類学とは何か？ 文化とは？																																			
3	異文化を捉える方法																																			
4	人類と言語																																			
5	人種、民族とエスニティ																																			
6	人生と時間①																																			
7	人生と時間②																																			
8	人と人のつながり①																																			
9	人と人のつながり②																																			
10	人と人のつながり③																																			
11	信仰・世界観①																																			
12	信仰・世界観②																																			
13	医療と文化																																			
14	「〇〇人類学」の世界 ～「批判知の学」から「実践知の学」へ～																																			
15	ふりかえり（講義全体のまとめ・復習）																																			
16	期末試験（論述式）																																			
テキスト・参考文献・資料など	テキストは特にありません。参考文献は講義時に適宜紹介します。必要資料も配付します。 【参考文献】 ①『よくわかる文化人類学〔第2版〕』2010、綾部恒雄他編、ミネルヴァ書房 ②『文化人類学キーワード〔改訂版〕』2008、山下晋司他編、有斐閣 などが手元にあると、随時確認することができ理解を助けます。																																			
学びの手立て	①「履修の心構え」 ・他の受講生の妨げとなる行為（居眠り、おしゃべり、スマホいじりなど）厳禁。 ・講義開始後20分を過ぎての遅刻は正当な理由がない限りは欠席扱いとします。 ②「学びを深めるために」 ・テレビのドキュメンタリー番組などを見て興味・見識の幅を広げてください。 ・講義では、高校生まではあまり聞いたことのない概念（用語）が出てきます。新しい世界への扉を開く際には、忍耐が必要になります。参考文献などを開いて理解を深める努力をしましょう。																																			
評価	出席確認および、内容理解を確認するためのリアクションペーパー（30%） 期末試験（70%）																																			

学びの継続	次のステージ・関連科目 「文化人類学Ⅱ」「比較民俗学」「沖縄の民俗」「沖縄の社会」「社会学」などでさらなるステップアップを目指しましょう。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化人類学Ⅰ	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-栗国 恭子	1年	授業終了後に教室で受け付けます。または学内E-mail	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	文化人類学（民族学）は世界の民族社会・文化（異文化）を比較研究する学問である。様々な地域・環境で生きる人々の民族文化から多様な「人間の在り方」を考えてみる。自身とは異なる「文化」（慣習や生活スタイル、社会の仕組み、考え方）を知ることで、自身の文化のあり様を知る。	この講義は、はじめて受講される方、また後期に開講される「文化人類学Ⅱ」継続受講する学生でも登録可能です。世界に暮らす人々の多様さと自分自身の文化（生活や価値観など）と比較しながら、豊かな「人間の在り方」興味を持つきっかけにしてください。
到達目標	19世紀の中頃に誕生した「人間を在り方を問う」学問・文化人類学（民族学）の方法論、視点、民族社会・文化を対象にした研究の流れなど（1週から4週）で基本的な学問の特徴を確認し、どのような理論が展開されたのか、現代の民族問題について確認する。自然環境（海や照葉樹林帯）と文化の関りと多様な社会のあり様（トロブリアンと諸島スールー海、中国西南部）、異民族社会を繋ぐ空間認識、食や香り、技術・身体などのテーマを確認する。それぞれの民俗文化・社会は独自性を持ちながらも孤立するものでもない。多民族の文化と沖縄・日本に暮らす自身の文化とどのように繋がっているのかを理解する。幅広い視野を持つことの必要性や自身の考え・価値を豊かにできるようにする。また、少数派（マイノリティー）への捉え方が相対的に理解することが出来る。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	文化人類学とはどのような学問か 「文化」概念・方法論・相対的な視野	文献②・③・④・⑤を確認
	2	人種と国家と民族 文化人類学の向き合う社会「民族（文化）」について	同上
	3	現代の〈民族〉問題	文献③・④を確認
	4	文化人類学説史 約160年間で生まれた理論のその変化	文献①・②・③・④・⑤を確認
	5	海に生きる人々① パプア・ニューギニア クラ交換 マリノフスキーの視点	文献①・④を確認
	6	海に生きる人々② 漂海民 スールー海バジャウの定住化と近代国家観	文献②・③・④を確認
	7	自然環境と文化① 照葉樹林文化（中国南部、西日本、沖縄）について	同上
	8	自然環境と文化② 現代の食文化（アジア・日本、グローバル化、文化評価）	日々の食事の種類・材料を確認
	9	自然環境と文化③ 香りの文化（歴史人類学の視点：丁子・竜涎香・ムスク）	日々の暮らしの香りとは考える
	10	自然環境と文化④ 東アジア・琉球の空間認識（風水・民俗方位ほか）	東アジア文化を調べる
	11	東アジアの民族文化② 中国西南部の少数民族の暮らし・多様な文化	中国の社会少数民族を調べる
	12	東アジアの民族文化② 中国西南部少数民族ナシ族の暮らし（伝統の保護）	同上
	13	造形技術と文化① 金属文化（中国ウイグル族、クバチ）、文化記録の視点	文献②・④を確認
	14	造形技術と文化② 東アジア・琉球の金属文化	沖縄の金属文化を調べる
15	造形技術と文化③ 身体装飾・入れ墨（アイヌ・琉球・台湾・パヌアツ）	文献②・④を確認	
16	テスト	「課題（テスト）の準備」	

実践	テキスト・参考文献・資料など
	<p>特定教科書はなし。講義用のレジュメ・資料は各自配布する。講義（講師）はパソコンを使用し、テーマによってはビデオ映像などを使用する。重要な参考文献などは講義の中で紹介する。</p> <p><参考文献>①綾部恒雄編『文化人類学群像 日本篇外国篇』（アカデミア出版、1988年から）②波平恵美子編『文化人類学』（医学書院、1993）③綾部恒雄編『よくわかる文化人類学』（ミネルヴァ書房、2006年）④山下晋司ほか編『文化人類学キーワード』（有斐閣、1997）⑤大田好信『トランスポジションの思想』（世界思想社、1998年）⑥その他『文化人類学事典』など</p>

学びの手立て	<p>①「履修の心得え」として、以下を注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出欠確認を毎回行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず「欠席届」などの書類は提出すること。 ・授業での疑問・質問は積極的にしてください。 <p>②「学びを深めるために」世界の多様な民族文化・歴史の文献・ビジュアル資料及び展示会やドキュメンタリー番組や、映画などに関心を持ち読書・観覧・鑑賞する機会を積極的に増やしてほしいです。例えば周りにいる留学生などとも交流を通しての互いの文化を語るのもいい機会です。</p>
--------	--

評価	<p>「評価方法・割合」期末試験80%、講義感想レポート10%・平常点10% 「評価基準」期末試験においては、世界の民族文化関係の情報理解だけではなく、講義を通して紹介したテーマに関連した文化について、どのような認識を持ち、また問題意識を持つようになったのか、自身の異文化観が深まったのかの思考のまとまりを論ずる過程を評価する。よって授業内容要約・暗記のみを求める試験ではない。</p>
----	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>(1)関連科目 多様な民族社会の文化の中から女性（ジェンダー）の文化と関りを取り上げる科目「女性と文化」や「民俗学」、環境・異文化をテーマにした科目をとることで、より多様な人間社会の理解が深まる。</p> <p>(2) 次のステージ 異なる民族文化を有する人々に関心を持ち交流して（旅行もおすすめ）、多様な価値観を理解することで自身の文化特徴や課題を深めてほしい。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化人類学Ⅱ	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 博美	1年	講義後に教室にて。または学内メールにて。	

学びの準備	ねらい 特定のトピックを通して、文化人類学という学問について理解する。どのような切り口で世界を眺めていくことができるのか？これまでの「当たり前」を揺さぶりながら、文化の多様性、人間の普遍性について知見を深めていく。	メッセージ 好奇心を持ち、新しいことを始めることに躊躇しないでください。文化人類学という学問では、他者（異文化、自分以外の人たち）との出会いを通して、豊饒な意味の世界を旅することができます。
	到達目標 文化人類学という学問を通して、世界に存在する多様で豊かな異文化の存在を知る。そのことにより、自分自身の立ち位置を相対化し、多種多様な他者（異文化、自分以外の人）とのかかわり方についても学ぶ。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	指定された文献を読む。
	2	文化人類学とはなにか？	指定された文献を読む。
	3	文化人類学の歴史	図書館で関連する文献を探す。
	4	文化人類学の理論	指定された文献を読む。
	5	信仰・信心・宗教①	指定された文献を読む。
	6	信仰・信心・宗教②	指定された文献を読む。
	7	信仰・信心・宗教③	身近な事象と比較する。
	8	老いをめぐる人類学	身近な事象と比較する。
9	病いをめぐる人類学	身近な事象と比較する。	
10	死の周辺の人類学	身近な事象と比較する。	
11	贈り物をめぐる人類学	指定された文献を読む。	
12	「地域」の資源化 —観光・ダークツーリズム	指定された文献を読む。	
13	博物館と人類学 —何をどう展示するのか	指定された文献を読む。	
14	人類学と戦争 —『菊と刀』/沖縄戦と「民事ハンドブック」	身近な事象と比較する。	
15	講義全体のまとめ・ふりかえり	図書館で関連する文献を探す。	
16	期末試験（論述式）		
実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特にありません。参考文献は講義時に適宜紹介します。必要資料も配付します。 【参考文献】 ①『よくわかる文化人類学〔第2版〕』2010、綾部恒雄他編、ミネルヴァ書房 ②『文化人類学キーワード〔改訂版〕』2008、山下晋司他編、有斐閣 などが手元にあると、随時確認することができ理解を助けます。		
	学びの手立て ①「履修の心構え」 ・他の受講生の妨げとなる行為（居眠り、おしゃべり、スマホいじりなど）厳禁。 ・講義開始後20分を過ぎての遅刻は正当な理由がない限りは欠席扱いとします。 ②「学びを深めるために」 ・テレビのドキュメンタリー番組などを見て興味・見識の幅を広げてください。 ・講義では、高校生まではあまり聞いたことのない概念（用語）が出てきます。新しい世界への扉を開く際には、忍耐が必要になります。参考文献などを開いて理解を深める努力をしましょう。		
	評価 出席確認および内容理解を確認するためのリアクションペーパー（30%） 期末試験（70%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 次に「民俗学」「比較民俗学」「社会学」などの隣接科目を受講することで、文化・社会についてのさらなる理解へとステップアップできます。
-------	--

科目基本情報	科目名 文化人類学Ⅱ	期別 後期	曜日・時限 火2	単位 2
	担当者 -栗国 恭子	対象年次 1年	授業に関する問い合わせ	
			授業内容の質問などは授業終了後に教室で受け付けます。または学内mail	

学びの準備	ねらい 文化人類学（民族学）は世界の民族社会・文化（異文化）を比較研究する学問である。様々な地域・環境で生きる人々の民族文化から多様な「人間の在り方」を考えてみる。自身とは異なる「文化」（慣習や生活スタイル、社会の仕組み、考え方）を知ることで、自身の文化のあり様を知る。	メッセージ この講義は、前期に開講される「文化人類学Ⅰ」を受講していない学生でも登録可能です。初心者に必要な「文化人類学とはどのような学問か」入門概論（前期と重複内容1～4週）も行います。前期から継続受講学生と共に安心して受講してください
	到達目標 19世紀の中頃に誕生した「人間を在り方を問う」学問・文化人類学（民族学）の方法論、視点、民族社会・文化を対象にした研究の流れなど（1週から4週）で基本的な学問の特徴を確認し、どのような理論が展開されたのか、現代の民族問題について確認する。宗教研究における必要な用語を確認し、民族社会、現代社会との関りを、多彩な研究の切り口を確認する。現代の文化人類学が取り組む課題（観光・開発と少数民族社会・文化変化）を通して文化人類学の役割を確認する。 それぞれの民俗文化・社会は独自性を持ちながらも孤立するものでもない。多民族の文化と沖縄・日本に暮らす自身の文化とどのように繋がっているのかを理解する。また、少数派（マイノリティー）への捉え方が相対的に理解することが出来る。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	文化人類学とはどのような学問か 「文化」概念・方法論・相対的な視野
	2	人種と国家と民族 文化人類学の向き合う社会「民族（文化）」について
	3	現代の〈民族〉問題
	4	文化人類学説史 約160年間で生まれた理論のその変化
	5	文化人類学と文化表象 民族博物館の資料と展示 植民地主義と異文化研究
	6	宗教人類学① 「宗教」概念、アニミズム、
	7	宗教人類学② 社会変動と宗教活動
	8	宗教人類学③ 民族宗教と現代社会（「カルト」概念変化、宗教の政治利用）
	9	宗教人類学④ 文化象徴と他界観 空飛ぶものと心意
	10	宗教人類学⑤ 色彩と心意（東アジア・琉球）
	11	宗教人類学⑥ レヴィストロースのクリスマス分析構造分析 米国と異文化社会
	12	観光人類学① 「伝統」の概念、「伝統の創造」バリ・沖縄
	13	観光人類学② 「文化は誰のものか」中国チベット社会と観光化の波
	14	開発人類学① 開発（環境）問題と先住民社会の変化 ブラジル・カヤボ
	15	開発人類学② 開発（環境）問題と先住（少数）民族 ブラジル・イゾラド
16	テスト	
		時間外学習の内容
		文献②・③・④・⑤を確認
		同上
		文献③・④を確認
		文献①・②・③・④・⑤を確認
		文献②・④を確認
		文献②・③・④を確認
		同上
		同上
		象徴人類学・ギャーツを調べる
		色彩と文化について考える
		文献①・④を確認
		文献③・④を確認
		同上
		同上
		同上、ブラジルについて調べる
		[課題（テスト）の準備]

実践	テキスト・参考文献・資料など 特定教科書はなし。講義用のレジュメ・資料は各自配布する。講義（講師）はパソコンを使用し、テーマによってはビデオ映像などを使用する。重要な参考文献などは講義の中で紹介する。 <参考文献>①綾部恒雄編『文化人類学群像 日本篇外国篇』（アカデミア出版、1988年から）②波平恵美子編『文化人類学』（医学書院、1993）③綾部恒雄編『よくわかる文化人類学』（ミネルヴァ書房、2006年）④山下晋司ほか編『文化人類学キーワード』（有斐閣、1997）⑤大田好信『トランスポジションの思想』（世界思想社、1998年）⑥その他『文化人類学事典』など
----	---

学びの手立て	①「履修の心得え」として、以下を注意してください。 ・出欠確認を毎回行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず「欠席届」などの書類は提出すること。 ・授業での疑問・質問は積極的にしてください。 ②「学びを深めるために」世界の多様な民族文化・歴史の文献・ビジュアル資料及び展示会やドキュメンタリー番組や、映画などに関心を持ち読書・観覧・鑑賞する機会を積極的に増やしてほしいです。例えば周りにいる留学生などとも交流を通しての互いの文化を語るのもいい機会です。
--------	--

評価	「評価方法・割合」期末試験80%、講義感想レポート10%・平常点10% 「評価基準」期末試験においては、世界の民族文化関係の情報理解だけではなく、講義を通して紹介したテーマに関連した文化について、どのような認識を持ち、また問題意識を持つようになったのか、自身の異文化観が深まったのかの思考のまとまりを論ずる過程を評価する。よって授業内容要約・暗記のみを求める試験ではない。
----	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 (1)関連科目 多様な民族社会の文化の中から女性（ジェンダー）の文化と関りを取り上げる科目「女性と文化」や「民俗学」、環境・異文化をテーマにした科目をとることで、より多様な人間社会の理解が深まる。 (2)次のステージ 異なる民族文化を有する人々に関心を持ち交流して（旅もおすすめです）、多様な価値観を理解することで自身の文化特徴や課題を深めてほしい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	文化人類学Ⅱ	後期	火 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 理麻	1年	r.higa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は特定トピックにしぼり、文化人類学の専門的な視点と方法を養うことを目指す。具体的には「人と動物の関係」を切り口にして、現代社会において「食べる・生きる」ことの意味を問う。最終的には自らの人間中心主義的なものの見方を相対化し、より多様な人と動物の関係を捉える視点を養うことを目標とする。	メッセージ 新しい世界の見方を獲得しましょう。
	到達目標 人と動物の関係を扱う文化人類学の理論について理解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	授業時に指摘した文献の講読
	2	現代社会と人間中心主義	授業時に指摘した文献の講読
	3	理論① 食をめぐる唯物論と意味論の論争	授業時に指摘した文献の講読
	4	理論② 動物機械論と動物靈魂論	授業時に指摘した文献の講読
	5	理論③ 動物人格論	授業時に指摘した文献の講読
	6	食をめぐる問題① 食の安全（狂牛病とクローン羊）	授業時に指摘した文献の講読
	7	食をめぐる問題② 生活習慣病と肥満	授業時に指摘した文献の講読
	8	食をめぐる問題③ 動物の屠殺に対する差別	授業時に指摘した文献の講読
9	食物／パートナーとしての動物① アニマル・ファクトリー	授業時に指摘した文献の講読	
10	食物／パートナーとしての動物② ペット家族論	授業時に指摘した文献の講読	
11	食物／パートナーとしての動物③ 韓国の犬食とナショナリズム	授業時に指摘した文献の講読	
12	人と動物の共生① 動物解放論とベジタリアン	授業時に指摘した文献の講読	
13	人と動物の共生② アニマル・ウェルフェア	授業時に指摘した文献の講読	
14	人と動物の共生③ アニマル・セラピー	授業時に指摘した文献の講読	
15	総括	総合的な復習	
16	試験	試験問題のおさらい	
	テキスト・参考文献・資料など とくに指定しない。 講義時に重要な文献は随時紹介する。		
	学びの手立て 世界の多様な文化・社会に関わる新聞記事や著作を読み、自らの問題意識を育む。		
	評価 原則として、リアクションペーパーの内容（10%）と試験（90%）によって総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 文化人類学Ⅰ
-------	-----------------------

※ポリシーとの関連性

学部にかかわらず、社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能を身に付け、良識を養うための科目の一つです。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	法学	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田中 佑佳	1年	基本的には、授業後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本授業は、現代社会に存在する法について、各テーマに沿って解説していきます。普段は意識しないかもしれませんが、実は日常生活の中にあふれている法的な問題を発見し、どのような法がどのような関わっているのかを分析し、自分なりに考える契機にすることを目的とします。	メッセージ 授業時間の制約上、多くの分野・テーマを網羅的に扱うことはできませんが、受講生の興味・関心も考慮しながら、できるかぎり身近な法的問題をとりあげ、分かりやすく解説したいと思います。各自の将来の進路の必要に応じて、法的な問題を一緒に考えていければと思います。
	到達目標 本授業では、①法律の基本的な知識を習得すること、②私たちが生活する社会にある法的問題について、読み解く力を培うこと、③授業において興味・関心をもったテーマや法的問題について、論理的に説明する力を身につけること、を目標とします。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読む。
	2	法とは何か	配布資料を読む。
	3	法と裁判①	テキストBreak①～⑦を読む。
	4	法と裁判②	テキストBreak①～⑦を読む。
	5	法と裁判③	テキストBreak①～⑦を読む。
	6	憲法入門①	テキスト6・7章を読む。
	7	憲法入門②	テキスト6・7章を読む。
	8	刑法入門①	テキスト1・2章を読む。
9	刑法入門②	テキスト1・2章を読む。	
10	裁判員制度とは	テキスト1・2章を読む。	
11	死刑制度とは	テキスト1・2章を読む。	
12	これまでの授業のまとめ、復習、+αの回	これまでの範囲の確認。	
13	民法入門①	テキスト3～5章を読む。	
14	民法入門②	テキスト3～5章を読む。	
15	全体のまとめ、復習、+αの回	授業内容の不明点を確認する。	
16	試験	授業内容の不明点を確認する。	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：松井茂記ほか『はじめての法律学 ― HとJの物語【第5版】』（有斐閣、2017年）（参考価格：1, 700円+税）授業は、テキストと各テーマごとに配布するレジュメを用いて進めます。 参考文献：必要に応じて授業時に紹介したいと思います。たとえば、大林啓吾ほか『ケースで学ぶ法学ナビ』（みらい、2018年）、池田真朗ほか『法の世界へ【第6版】』（有斐閣、2014年）、各自使用しやすい六法（出版社は問いません）などをあげておきます。		
	学びの手立て 普段から意識して、新聞・ニュースなどで社会問題に触れておくようにすることが望ましいです。また、授業時における理解を深めるためにも、各回のテーマについて予習・復習をしてください。学習の方法例などは、授業時に適宜お伝えします。		
	評価 授業で扱った事項について、基本的な知識を習得し、それをもとに論理的に考え論ずることができるかで評価します(期末試験100%)。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として日本国憲法があります。また、各自の興味・関心、将来の目標に沿った科目を履修する際にも、法学で学んだことと関連付けてみると、より有意義な学習ができるのではないかと考えています。
-------	---

※ポリシーとの関連性

学部にかかわらず、社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能を身に付け、良識を養うための科目の一つです。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	法学	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田中 佑佳	1年	基本的には、授業後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本授業は、現代社会に存在する法について、各テーマに沿って解説していきます。普段は意識しないかもしれませんが、実は日常生活の中にあふれている法的な問題を発見し、どのような法がどのような関わっているのかを分析し、自分なりに考える契機にすることを目的とします。	メッセージ 授業時間の制約上、多くの分野・テーマを網羅的に扱うことはできませんが、受講生の興味・関心も考慮しながら、できるかぎり身近な法的問題をとりあげ、分かりやすく解説したいと思います。各自の将来の進路の必要に応じて、法的な問題を一緒に考えていければと思います。
	到達目標 本授業では、①法律の基本的な知識を習得すること、②私たちが生活する社会にある法的問題について、読み解く力を培うこと、③授業において興味・関心をもったテーマや法的問題について、論理的に説明する力を身につけること、を目標とします。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読む。
	2	法とは何か	配布資料を読む。
	3	法と裁判①	テキストBreak①～⑦を読む。
	4	法と裁判②	テキストBreak①～⑦を読む。
	5	法と裁判③	テキストBreak①～⑦を読む
	6	憲法入門①	テキスト6・7章を読む。
	7	憲法入門②	テキスト6・7章を読む。
	8	刑法入門①	テキスト1・2章を読む。
9	刑法入門②	テキスト1・2章を読む。	
10	裁判員制度とは	テキスト1・2章を読む。	
11	死刑制度とは	テキスト1・2章を読む。	
12	これまでの授業のまとめ、復習、+αの回	これまでの範囲の確認。	
13	民法入門①	テキスト3～5章を読む。	
14	民法入門②	テキスト3～5章を読む。	
15	全体のまとめ、復習、+αの回	授業内容の不明点を確認する。	
16	試験	授業内容の不明点を確認する。	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：松井茂記ほか『はじめての法律学 ― HとJの物語【第5版】』（有斐閣、2017年）（参考価格：1, 700円+税）授業は、テキストと各テーマごとに配布するレジュメを用いて進めます。 参考文献：必要に応じて授業時に紹介したいと思います。たとえば、大林啓吾ほか『ケースで学ぶ法学ナビ』（みらい、2018年）、池田真朗ほか『法の世界へ【第6版】』（有斐閣、2014年）、各自使用しやすい六法（出版社は問いません）などをあげておきます。		
	学びの手立て 普段から意識して、新聞・ニュースなどで社会問題に触れておくようにすることが望ましいです。また、授業時における理解を深めるためにも、各回のテーマについて予習・復習をしてください。学習の方法例などは、授業時に適宜お伝えします。		
	評価 授業で扱った事項について、基本的な知識を習得し、それをもとに論理的に考え論ずることができるかで評価します(期末試験100%)。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として日本国憲法があります。また、各自の興味・関心、将来の目標に沿った科目を履修する際にも、法学で学んだことと関連付けてみると、より有意義な学習ができるのではないかと考えています。
-------	---

※ポリシーとの関連性

学部にかかわらず、社会人として自立するために必要な広範かつ基本的な知識・技能を身に付け、良識を養うための科目の一つです。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	法学	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田中 佑佳	1年	基本的には、授業後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 本授業は、現代社会に存在する法について、各テーマに沿って解説していきます。普段は意識しないかもしれませんが、実は日常生活の中にあふれている法的な問題を発見し、どのような法がどのように関わっているのかを分析し、自分なりに考える契機にすることを目的とします。	メッセージ 授業時間の制約上、多くの分野・テーマを網羅的に扱うことはできませんが、受講生の興味・関心も考慮しながら、できるかぎり身近な法的問題をとりあげ、分かりやすく解説したいと思います。各自の将来の進路の必要に応じて、法的な問題を一緒に考えていければと思います。
	到達目標 本授業では、①法律の基本的な知識を習得すること、②私たちが生活する社会にある法的問題について、読み解く力を培うこと、③授業において興味・関心をもったテーマや法的問題について、論理的に説明する力を身につけること、を目標とします。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読む。
	2	法とは何か	配布資料を読む。
	3	法と裁判①	テキストBreak①～⑦を読む。
	4	法と裁判②	テキストBreak①～⑦を読む。
	5	法と裁判③	テキストBreak①～⑦を読む。
	6	憲法入門①	テキスト6・7章を読む。
	7	憲法入門②	テキスト6・7章を読む。
	8	刑法入門①	テキスト1・2章を読む。
9	刑法入門②	テキスト1・2章を読む。	
10	裁判員制度とは	テキスト1・2章を読む。	
11	死刑制度とは	テキスト1・2章を読む。	
12	これまでの授業のまとめ、復習、+αの回	これまでの範囲の確認。	
13	民法入門①	テキスト3～5章を読む。	
14	民法入門②	テキスト3～5章を読む。	
15	全体のまとめ、復習、+αの回	授業内容の不明点を確認する。	
16	試験	授業内容の不明点を確認する。	
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト：松井茂記ほか『はじめての法律学 ― HとJの物語【第5版】』（有斐閣、2017年）（参考価格：1,700円＋税） 授業は、テキストと各テーマごとに配布するレジュメを用いて進めます。 参考文献：必要に応じて授業時に紹介したいと思います。たとえば、大林啓吾ほか『ケースで学ぶ法学ナビ』（みらい、2018年）、池田真朗ほか『法の世界へ【第6版】』（有斐閣、2014年）、各自使用しやすい六法（出版社は問いません）などをあげておきます。		
	学びの手立て		
	普段から意識して、新聞・ニュースなどで社会問題に触れておくようにすることが望ましいです。また、授業時における理解を深めるためにも、各回のテーマについて予習・復習をしてください。学習の方法例などは、授業時に適宜お伝えします。		
	評価		
	授業で扱った事項について、基本的な知識を習得し、それをもとに論理的に考え論ずることができるかで評価します(期末試験100%)。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目として日本国憲法があります。また、各自の興味・関心、将来の目標に沿った科目を履修する際にも、法学で学んだことと関連付けてみると、より有意義な学習ができるのではないかと考えています。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ボランティア論	前期	土3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-前田 一舟	1年	ptt219@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>ボランティアは、自発性と地域の社会問題・環境問題の発見やその解決にあります。その活動は自ら取り組みたい気持ちから出発し、その体験を通して地域の問題を解決する手法です。とりわけ、地域社会に根ざした相互扶助やNPO活動等より学んでいきます。</p>	<p>地域社会の課題から取り組んだ事例を紹介しつつ、学生の興味と参加をもとに学んでいきます。この授業をきっかけに少しでも地域の社会問題・環境問題、NPO活動に興味を持ってけると幸いです。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 標準的かつ入門的なボランティア論の用語を自分の言葉で説明できるよう目指します。 地域の相互扶助の基礎をもとに地域社会の課題へ目をむけるよう取り組みます。 地域の社会の課題を自ら調べ、わかりやすく説明できるようにします。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	シラバスの説明とボランティア活動の体験談	シラバスをよく読むこと
	2	学生からみたボランティアとは？	参考文献①を読む
	3	ボランティアとは何か？	自主学習①（やさしさを学ぶ）
	4	ボランティア活動の分野について	自主学習②（読み・書き）
	5	ボランティア学習の考え方	自主学習③（自己管理と計算）
	6	親子で取り組むボランティア学習	自主学習④（勇気の言葉）
	7	ボランティア活動の学び	自主学習⑤（自己と他人の理解）
8	ボランティア活動と沖縄社会の相互扶助について	自主学習⑥（地域で探そう）	
9	学生がみたボランティア活動（1）－まちづくり編－	自主学習⑦（新聞等で探そう）	
10	学生がみたボランティア活動（2）－文化・芸術・スポーツ編－	自主学習⑧（新聞等で探そう）	
11	学生がみたボランティア活動（3）－教育編－	自主学習⑨（新聞等で探そう）	
12	学生がみたボランティア活動（4）－環境編－	自主学習⑩（新聞等で探そう）	
13	学生がみたボランティア活動（5）－災害編－	宿題①	
14	学生がみたボランティア活動（6）－福祉編－	宿題②	
15	地域社会で根ざすボランティア活動とは	レポート	
16	テスト・レポート	合計60点未満の人は再試（予定）	
テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】・授業中ではテーマに関するレジュメや資料等を配布する。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外の自主学習に役立つ参考文献として以下を推薦する。 ① 奏辰也、『ボランティアの考え方（岩波ジュニア新書）』、岩波書店、1999年。 ② 金子郁容、『ボランティア－もうひとつの情報社会（岩波新書）』、岩波書店、1992年。 ③ 西條剛央、『人を助けるすんごい仕組み』、ダイヤモンド社、2012年。 		
学びの手立て	<p>【学びの手立て】・授業のなかで配布した資料や紹介した情報を復習し、次の自主学習へ取り組むよう心掛ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業では担当者による一方的な情報提供だけでなく、自主学習及び意見参加型の場を常に求める為、自発的な意見等を要する。 【履修の心構え】 ・授業の進行によってはボランティアに関する日本の最新報道や台風等による休講からトピックの順序を変えたり、一部変更することがある。 ・授業を受講する上での最低限のマナー（携帯電話・遅刻・居眠り・退出・私語）は、心得ておくこと。また、課題等の提出期限は厳守するものとし、締切日以降の提出は一切受け付けないので十分に留意すること。 		
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の到達目標を達成する為、授業のなかでその都度記述課題や学習課題を求める。その評価を以下のとおり設定する。 ・テストまたはレポート（50%）、課題発表（40%）、平常点（質問や発言を適宜加点10%）より評価する。 ・出席状況については、遅刻並びに無断欠席が5回以上になると「不可」とする。 		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連科目としては、「NPO入門」「協働社会論」「生涯学習概論」「環境文化論」「社会福祉入門Ⅰ・Ⅱ」「博物館教育論」等があげられる。 ・次なるステージとしては、受講終了後に独自で取り組みたい興味のあるテーマを設定し、その社会体験を取り組んでほしい。とりわけ興味ある分野のテーマを関連づけ、地域社会、NPOと大学で習得してほしい。
-------	--